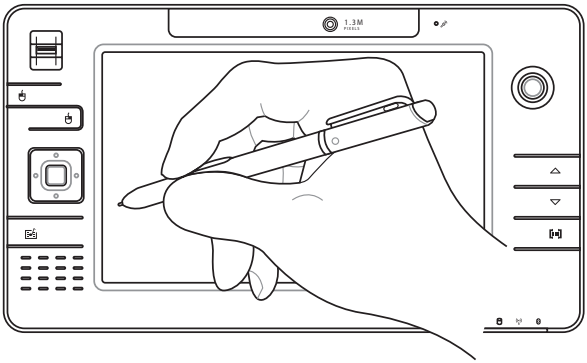
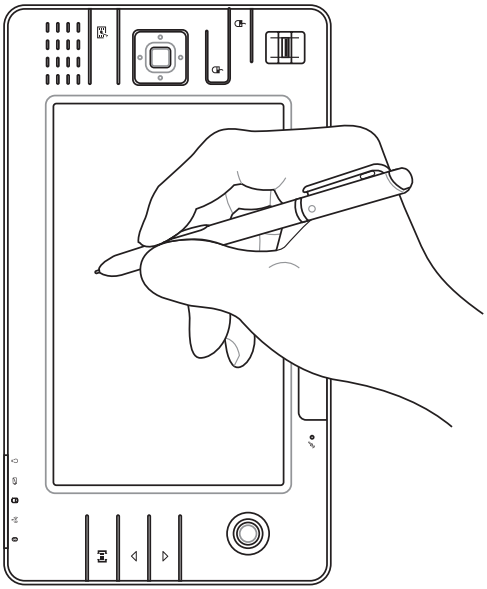
UltraMobilePC（UMPC）

ハードウェアユーザーマニュアル





J3357 / 2007年９月

もくじ

1. UltraMobilePCの概要

本マニュアルについて.....6
本マニュアルの表記について.....6
安全上の注意.....7
運搬時の注意.....8
UltraMobilePC を準備する.....9

2. 各部の名称と説明

前面.....12
右側.....14
上面.....16
左側.....18
底面.....19
背面.....20

3. 使用の手引き

パワーシステム.....24
ACアダプタを使用する.....24
バッテリパックを使用する.....25
バッテリの取り扱い方.....25
電源をオンにする.....26
パワーオンセルフテスト（POST）.....26
S.M.A.R.T.....26
バッテリの残量の確認.....27
バッテリパックを充電する.....28
電源オプション.....28
再起動.....28
電源管理.....29
スリープと休止状態.....29
熱パワーコントロール.....29
ステータスインジケータ.....30

4. UltraMobilePC を使用する

ディスプレイキャリブレーション 32
接続 33
ネットワーク接続 33
無線 LAN 接続 (特定モデルのみ) 34
Windows 無線ネットワーク接続 35
Bluetooth 無線接続(特定モデルのみ) 36
OSとソフトウェア 39
サポートするソフトウェア 39
指紋スキャナー（特定モデルのみ） 40
GPS ソフトウェア（アメリカ合衆国・ヨーロッパのみ） 42
3G Watcher ソフトウェア（特定モデルのみ） 43

付録

オプション（アクセサリ） 48
オプション（その他のアクセサリ） 51
オプション（接続） 52
Bluetooth Instruction Guideline 53
用語集 58
Certifications 61

1. UltraMobilePCの概要

本マニュアルについて
本マニュアルの表記について
安全上の注意
UltraMobilePCを準備する

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

本マニュアルについて

本書は、UltraMobilePC のユーザーマニュアルです。本書では UltraMobilePC の構成部品の説明やその使い方について説明します。本書は以下の章から構成されています。

1. UltraMobilePCの概要

UltraMobilePC と本ユーザーマニュアルの概要です。

2. 各部の説明

UltraMobilePC の構成部品について解説します。

3. 使用の手引き

UltraMobilePCを最初にお使いになる時に必要な情報です。

4. UltraMobilePCを使用する

UltraMobilePC の各機能の使い方です。

付録

オプションの紹介と参考資料です。

本マニュアルの表記について

注意事項等は重要性によって以下のように区別されています。

警告：本体の破損、データの消失および人体への障害を防止するための情報です。

ヒント：作業の参考になるヒントです。

重要：本体の破損、データの消失および人体への障害を防止するために必ず行わなければいけない事項です。

注：作業を完了するために必要な追加情報です。

安全上の注意

UltraMobilePCを末長くお使いいただくために以下の注意事項を守ってください。本マニュアルに記載されていない事項については、技術者等にご相談ください。損傷のある電源コードや周辺機器を使用しないでください。本体のお手入れに、シンナー・ベンジンなどの化学薬品を使用しないでください。

重要：UltraMobilePCお手入れの際は、電源を切りAC電源アダプターとバッテリパックを取り外してください。清潔なスポンジまたは柔らかい布に研磨材の含まれていない洗剤を温水で薄めたものを数滴含ませ、汚れを拭き取ってください。最後に乾いた布を使って余分な水分を完全に取り除いてください。

禁止：平らでない、不安定な場所に置かないでください。筐体を破損した場合には、代理店にご連絡ください。

禁止：上に物を置いたり落としたりしないでください。内部に異物が入らないようにしてください。

禁止：ディスプレイを強く押したり、パネルを傷つけたり本体に入り込むようような物とは一緒にしたりしないでください。

禁止：強い磁気を近づけないでください。

禁止：ホコリや汚れの多い環境下に置かないでください。ガス漏れの恐れがある場所で使用しないでください。

禁止：液体・雨・湿気を避けてください。雷の発生時はモデムを使用しないでください。

禁止：UltraMobilePCの使用中は、底面が熱くなります。ひざの上など人体に長時間接触させて使用すると火傷を負う恐れがあります。

バッテリの管理：
火中に投じないでください。
回路をショートさせないでください。
分解しないでください。

安全な操作温度：本 UltraMobilePC は 5°～35°の周辺温度でご使用ください。

入力定格：UltraMobilePCの底部に記載があります。電源アダプタが対応していることを確認してください。

禁止：本製品を一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄の際は電子機器の廃棄に関する地域の条例等に従ってください。

禁止：電源がオンのまま本製品を持ち運ばないでください。また、キャリーバッグに入れたり、カバーをしたりしないでください。通気が悪くなり故障の原因となります。

３G[1]搭載モデル：３G（1）搭載モデルは電波を放出し、電気障害の原因となることがあります。また、電波を放出する機器の使用が許可されている場所で使用する必要があります。使用の際はご注意ください。

警告：ガソリンスタンドや化学薬品倉庫、爆破作業を行っている場所など、爆発の危険性がある場所では ３G 機能は必ずオフにしてください。

[1]（定義はセクション 4 の終わりをご覧ください）

運搬時の注意

UltraMobilePC を持ち運ぶ場合は電源をオフにし、**すべての外部周辺機器を取り外してください**。電源がオフになるとハードディスクの表面を守るため、ハードディスクドライブのヘッドが戻ります。 UltraMobilePCを移動するときは、必ず電源をオフにしてください。

UltraMobilePC のケース

UltraMobilePCを汚れ・水・衝撃・傷から保護するために、携帯用ケースの使用をお勧めします（ケースはオプションです）。

重要：UltraMobilePC本体の表面の「ツヤ」は、正しく扱わないと失われてしまいます。本体表面をこすったりひっかいたりしないように注意してください。

バッテリの充電

ACアダプタがPCとコンセントに接続されていれば、バッテリは自動的に充電されます。ノートパソコンの電源がオンの場合は充電時間は長くなります。

航空機内での使用について

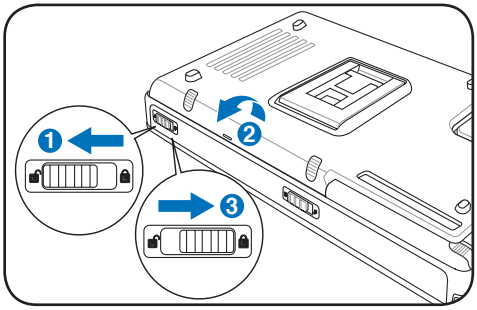
航空機内でのUltraMobilePC の使用については、各航空会社にお問い合わせください。多くの航空会社では、電子機器の使用に対して規定を設けています。一般的に離着陸時の電子機器の使用は禁止されています。

重要：空港のセキュリティ装置には３つのタイプがあります。X線装置（荷物用）、磁気センサ（セキュリティゲートを通過する人間用）、および磁気ワンド（人間や小物用の短い棒）です。UltraMobilePC やハードディスクをX線装置に通すことは問題ありませんが、磁気センサや、磁気ワンドは避けてください。

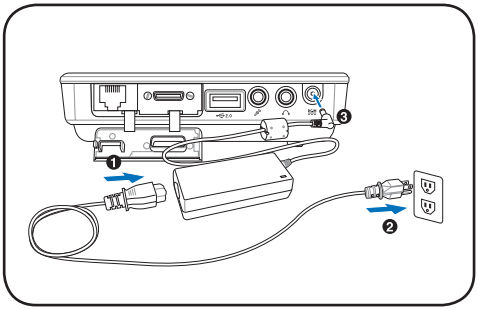
UltraMobilePC を準備する

UltraMobilePCの基本的な取り扱い方の説明です。

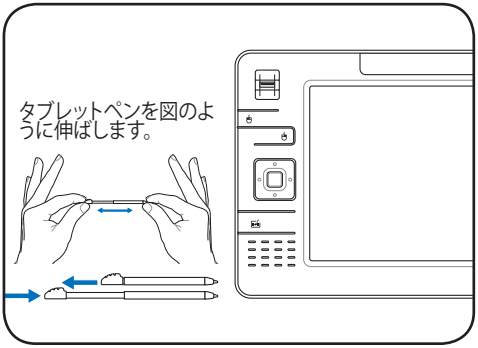
1. バッテリパックの取り付け



2. AC電源アダプタの接続

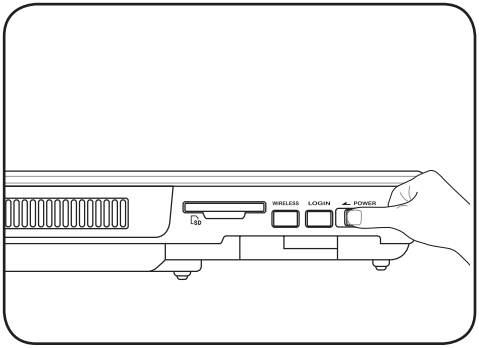


3. タブレットペンを取り外す



タブレットペンは伸縮可能です。使用時は伸ばし、収納する際は縮めてください。

4. 電源をONにする



Power スイッチをスライドし、指を離します。

Powerスイッチは、電源のオン/オフの切り替えや、スリープモード/休止モードに切り替える際に使用します。Powerスイッチの動作はコントロールパネルの「電源オプション」でカスタマイズすることができます。

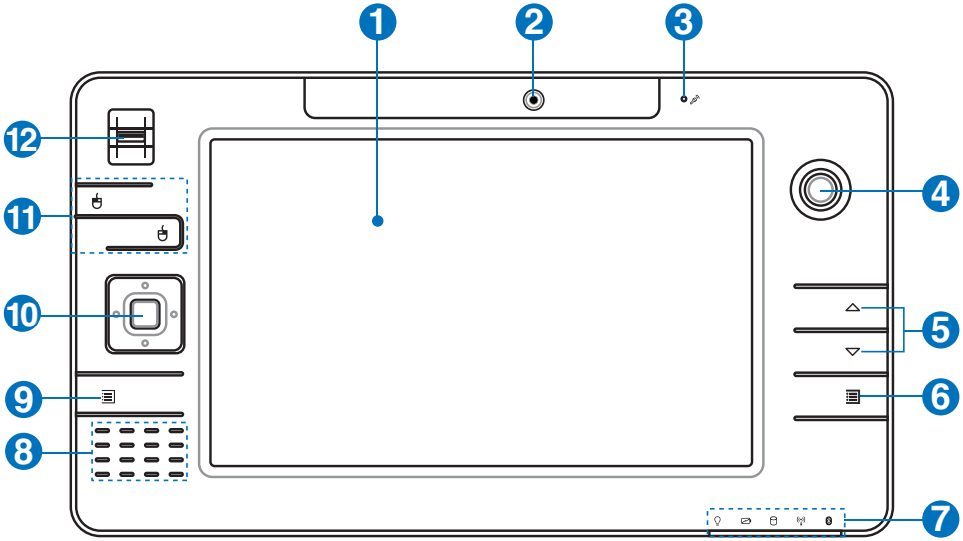
2. 各部の名称と説明

UltraMobilePC の各部の名称についての説明

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

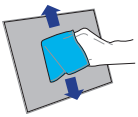
前面

下図は、UltraMobilePC 本体の前面の図です。



1 ディスプレイ

本製品はアクティブマトリックスTFT液晶を採用しており、デスクトップモニタと変わらないすばらしい画像を表示することができます。また、CRTモニタとは異なり画面のちらつきがないため、目への負担が小さくなります。お手入れの際は、合成洗剤を含まない柔らかい布で汚れを拭き取ってください。（必要な場合は水を含ませてください）



2 カメラ

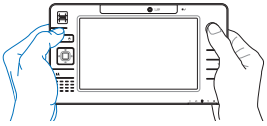
画像の撮影と動画の録画ができます。各種アプリケーションやビデオ会議等にご活用ください。

3 マイク（内蔵型）

内蔵型モノラルマイクロホンは、ビデオ会議、ナレーション、簡単な録音などの用途に使用することができます。

4 サムスティックカーソルコントロール

左右のサムスティックカーソルボタンを利用することでポインティングデバイスとなります。デスクトップマウスと同様の機能を提供します。



❺ ページアップ&ダウンボタン

キーボードの上下矢印キーと同様の機能があります。

❻ UltraMobilePC 設定ボタン

UltraMobilePC をカスタマイズするためのメニューを表示します。

❼ ステータスインジケータ

様々な状態を表します。詳細は 30 ページに記載しました。

❽ オーディオスピーカー

内蔵のステレオスピーカーシステムにより、特別な機能を追加せずに音楽をお楽しみいただけます。マルチメディアサウンドシステムはデジタルオーディオコントローラを搭載し、外部ステレオヘッドホンやスピーカーを使用することにより、より豊かで響くサウンドを作り出します。オーディオ機能はソフトウェア制御です。

❾ Microsoft Touch Pack ボタン

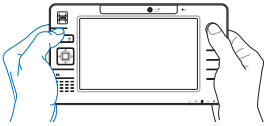
UMPC（Ultra Mobile Personal Computers）のために特別に構築されたソフトウェア「Microsoft Touch Pack」を起動します。

❿ 方向 & Enter ボタン

方向ボタン（上/下、左/右）とEnterボタン（中央）はキーボード上のキーと同様の機能があります。

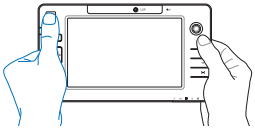
⓫ サムスティックカーソルボタン

左右のサムスティックカーソルボタンを利用することで、サムスティックコントロールがポインティングデバイスとなります。デスクトップマウスと同様の機能を提供します。



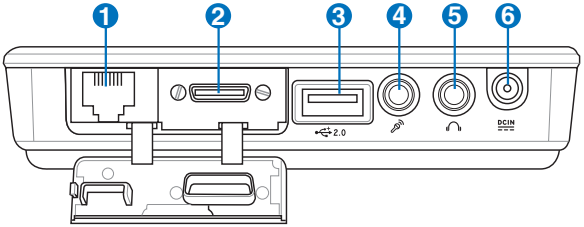
⓬ 指紋スキャナー（特定モデルのみ）

内蔵の指紋スキャナーにより、ご自身の指紋を識別キーとして用いたセキュリティソフトウェアを使用することができます。



右側

下の図を参照して、UltraMobilePCの右側コンポーネントを確認してください 。



1 LAN ポート（ポートバー使用時は無効）

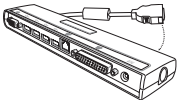
8ピンのRJ-45 LAN ポートはRJ-11モデムポートよりも大きく、ローカルネットワークに接続するための標準イーサネットケーブルをサポートします。増設アダプタ不要の便利な内蔵コネクタです。

注：Windows デバイスマネージャが内蔵 LANを検出するためには、アクティブ LAN ケーブル 1 本を接続する必要があります。同様の理由で、LAN ドライバをインストールする際はアクティブ LAN ケーブル 1 本を接続する必要があります。

2 拡張ポート

combo

拡張ポートにより、コネクタ 1 本で使い易いドッキングソリューションを提供し、デスクトップ周辺機器やその他のアクセサリを接続することができます。（ポートバーはオプション品です。）



注：（1）AC 電源アダプタをご使用ください。UltraMobilePC がバッテリモードの場合は使用できません。（2）UltraMobilePC とポートバーの全てのポートを使用している時は 2 つのAC 電源アダプタ（UltraMobilePC とポートバーのもの）の使用をお勧めします。（3）接続時はUltraMobilePCのLAN ポートを無効にしてください。

ディスプレイ（モニタ）出力（付属のアダプタを使用）

D-sub 15ピンモニタポートは、モニタやプロジェクタなどの標準のVGA互換デバイスをサポートし、それらに画面を表示することが可能です。

❸ USB ポート（2.0/1.1）

USBポートはキーボードやポインティングデバイス、ビデオカメラ、モデム、ハードディスクデバイス、プリンタ、モニタ、スキャナーなどの、最高12Mbits/秒（USB 1.1）または480Mbits/秒（USB 2.0）の機器に接続するUSB 2.0/USB 1.1 デバイスとの互換性があります。USB はハブのように機能するUSBキーボードやモニタなどの周辺機器と併用すれば、1 台のコンピュータで同時に複数のデバイスの使用が可能になります。また、USBはホットプラグに対応しているので、周辺機器の取り付け・取り外しが再起動せずに行えます。

❹ マイク入力ジャック

モノラルマイクジャック（1/8 インチ）は、外付けのマイクの接続、またはオーディオデバイスからの出力を入力するときに使います。このジャックを使用すると内蔵マイクは自動的に無効になります。ビデオ会議や、音声ナレーション、簡単な録音に使えます。

❺ ヘッドホン出力ジャック

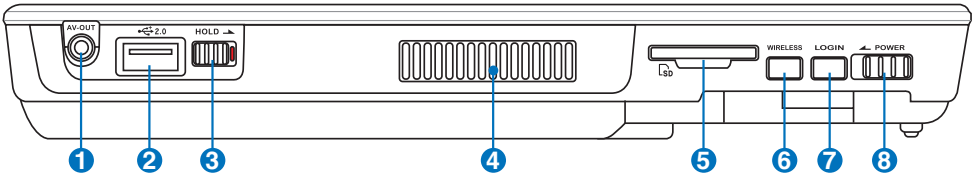
UltraMobilePCに外付けスピーカーまたはヘッドホンを接続するには、ステレオヘッドホンジャック（1/8 インチ）を使います。このジャックの使用を開始すると、内蔵スピーカーは自動的に無効となります。

❻ 電源入力

このジャックに付属のACアダプタを接続します。ACアダプタはAC電源をDC電源に変換し、UltraMobilePCに電力を供給しバッテリパックを充電します。UltraMobilePC とバッテリパックの損傷を防ぐため、常に付属のAC アダプタを使用するようにしてください。
注：UltraMobilePC は使用中高温になることがあります。身体に密着して使用しないでください。火傷の原因になります。

上面

下の図を参照してUltraMobilePCの上面のコンポーネントを確認してください。



❶ AV-OUT AV出力

オーディオ/ビデオ出力ポートは、TV/ビデオレコーダー等のアナログオーディオ /ビデオデバイスを接続します。

❷ 2.0 USB ポート（2.0/1.1）

USBポートはキーボードやポインティングデバイス、ビデオカメラ、モデム、ハードディスクデバイス、プリンタ、モニタ、スキャナーなどの、最高12Mbits/秒（USB 1.1）または480Mbits/秒（USB 2.0）の機器に接続するUSB 2.0/USB 1.1 デバイスとの互換性があります。USB はハブのように機能するUSBキーボードやモニタなどの周辺機器と併用すれば、1 台のコンピュータで同時に複数のデバイスの使用が可能になります。また、USBはホットプラグに対応しているので、周辺機器の取り付け・取り外しが再起動せずに行えます。

❸ HOLD Hold キー

有効にすると、各ボタン・スイッチとタッチ画面が無効になりますが、UltraMobilePC は動作し続けます（音楽の再生など）。

❹ 通気孔

通気孔により本体から熱を逃がします。

重要：紙、本、衣類、ケーブルまたはその他の物で通気孔を塞がないようにしてください。オーバーヒートの原因となります。

❺ SD SD メモリースロット

UltraMobilePCは内蔵のSD メモリカードリーダーを搭載しており、デジタルカメラ、MP3 プレイヤー、携帯電話、PDA などの SD フラッシュメモリカードを読み取ることができます。内蔵のSDメモリカードリーダーは便利であるだけでなく、ほとんどの外付け SDメモリカードリーダーより高速です。

❻ WIRELESS WIRELESS ボタン

内蔵無線 LAN と Bluetooth（特定モデルのみ）のオンとオフを切り替えます。有効にすると対応する無線インジケータが点灯します。無線 LAN と Bluetooth を使用するには Windows ソフトウェアの設定が必要です。

❼ LOGIN LOGIN ボタン

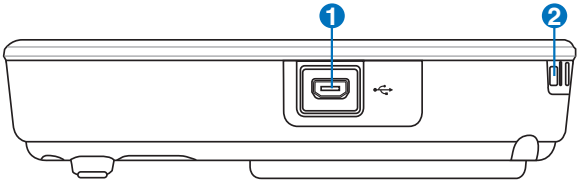
LOGIN ボタンにより、OSに対してキーボードの[Ctrl]+[Alt]+[Del] キーと同じ操作ができ、「Windows Security」を表示してログイン/オフ、ロック、シャットダウン、タスクマネージャの表示、パスワードの変更を行うことができます。この特別なログイン機能はSAS（Secure Attention Sequence）としても知られています。

❽ POWER POWER スイッチ

Power スイッチは、電源のオン/オフの切り替えや、スリープモード/休止モードに切り替える際に使用します。Power スイッチの動作はコントロールパネルの「電源オプション」でカスタマイズすることができます。

左側

下の図を参照してUltraMobilePCの左側のコンポーネントを確認してください。



1 ミニ USB ポート（タイプ A）

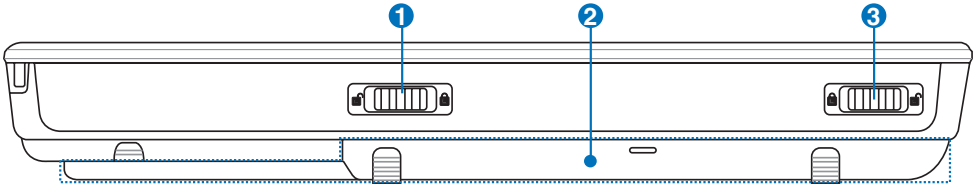
ミニUSB（Universal Serial Bus）ポートは、オプションの外付けUSB キーボードを接続します。

2 リストストラップフック

リストストラップを接続します。リストストラップを使用することで、MobilePCを手で持って使用する際に、誤って落とす事故を防止します。

底面

下の図を参照してUltraMobilePCの底面のコンポーネントを確認してください。



1 バッテリロック（バネ状）

バッテリパックを入れると自動的にロックし固定します。バッテリを取り外す際は、このロックを元の方向に戻してください。

2 バッテリパック

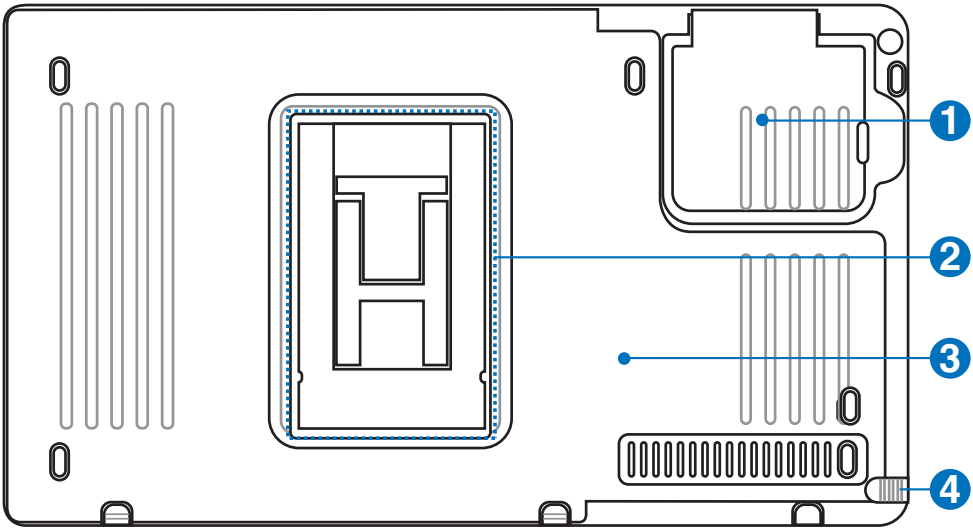
バッテリパックはACアダプタを接続すると自動的に充電し、ACアダプタが取り外されているときは、UltraMobilePCに電力を供給します。バッテリパックを装備していれば、さまざまな場所でUltraMobilePCを利用することが可能です。バッテリ駆動時間はUltraMobilePCの使用法、仕様により異なります。バッテリパックは分解しないでください。

3 バッテリロック（手動）

バッテリの取り付け/取り外しの際はこのロックを解除し、取り付け後はしっかり所定の位置にロックしてください。

背面

下の図を参照して、UltraMobilePCの背面にあるコンポーネントを確認してください。



1 GPS アンテナ（内蔵）

GPS アンテナを上に上げることで、受信機能が上がります。不使用時は下に下げることができます。内蔵の SiRF3 GPS チップセットがGPS アンテナを使用します。これにより、内蔵の GPS は追加の付属品を使用せずに、様々なナビゲーションソフトウェアと共に使用することができます。

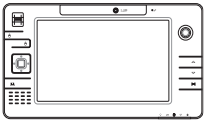
2 サポートスタンド

バッテリパックが折りたたみ可能なサポートスタンドと共に装備されており、平らな面の上にUltraMobilePC を立てることができ、簡単に閲覧できます。

3 バッテリパック

バッテリパックはACアダプタを接続すると自動的に充電し、ACアダプタが取り外されているときは、UltraMobilePCに電力を供給します。バッテリパックを装備していれば、さまざまな場所でUltraMobilePCを利用することが可能です。バッテリ駆動時間はUltraMobilePCの使用法、仕様により異なります。バッテリパックは分解しないでください。

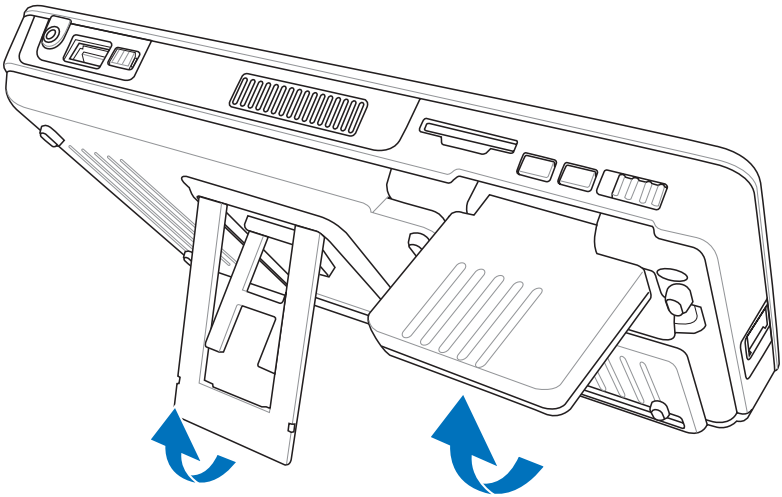
4 タッチスクリーンペンコンパートメント



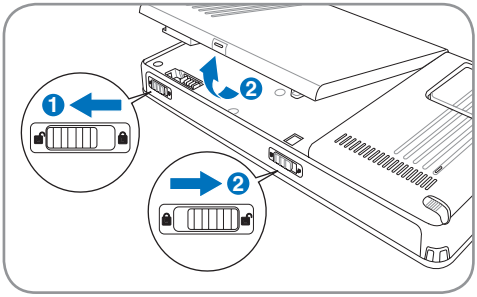
タッチスクリーンパネルで使用するペンを格納します。
注：タッチスクリーンペンはタッチスクリーンでカーソルと同様に機能します。電気構成部品はありません。

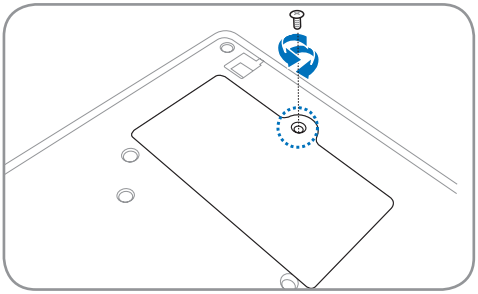
背面（続き）

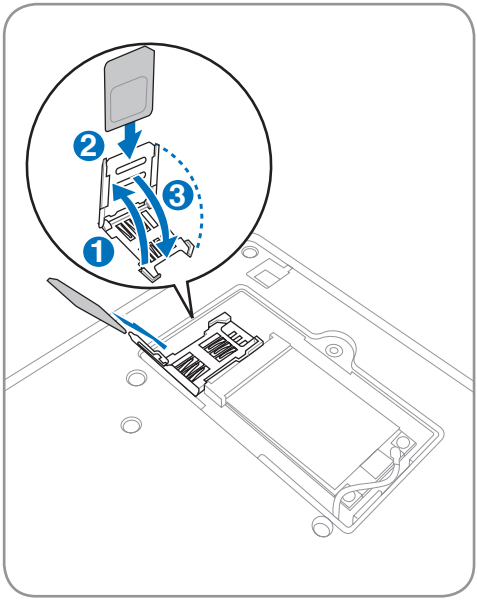
サポートスタンドとGPS アンテナは、使用時に図のように上に向けることができます。操作時や運搬時は元の位置に戻してください。



SIM カードの格納場所と取り付け方法







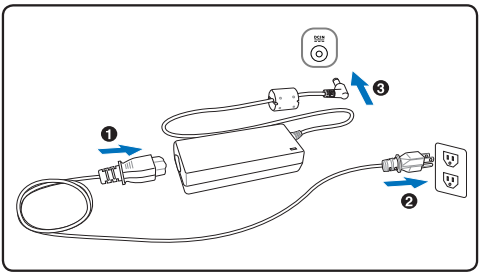
3. 使用の手引き

ACアダプタを使用する
バッテリパックを使用する
電源をオンにする
バッテリ残量の確認
再起動
電源管理
ステータスインジケータ

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

パワーシステム

ACアダプタを使用する



UltraMobilePCのパワーシステムには、ACアダプタとバッテリパワーシステムの２つがあります。ACアダプタは AC電源をUltraMobilePCに使うためにDC電源へ変換するものです。このUltraMobilePC ユニバーサルAC-DCアダプタが付属しているので 、スイッチやコンバータを使わずに100V-120V および220V-240V の電源に接続することができます。国によっては、変換アダプタを使用して、付属のAC電源コードを異なる規格に変更することが必要な場合もあります。通常、ホテルでは異なる電源コードと電圧をサポートするユニバーサルコンセントを備えていますが、電源アダプタを他の国で使う場合は、コンセントの電圧について事前にご確認ください。

ヒント：ほとんどの国と地域に対応する、市販のUltraMobilePC 用トラベルキット（電源アダプタ・モデムアダプタ）を購入することもできます。

ACアダプタに接続したAC電源コードを、まずコンセントに接続し、その後でDCプラグをUltraMobilePCに接続します。DCプラグをUltraMobilePC に接続する前に、まずACアダプタをコンセントに接続することによって、コンセントの電源とACアダプタ本体の互換性を検査することができます。電源が許容範囲内であれば、アダプタの緑色の電源LEDが点灯します。

重要：指定外のアダプタでUltraMobilePCに電力を供給しないでください。また、附属のACアダプタとAC電源コードを他の製品に使用しないでください。故障の原因となります。ACアダプタから煙が出たり焦げくさい臭いがした場合や、ACアダプタが異常に熱くなった場合は修理をご依頼ください。故障したACアダプタの使用はバッテリパックとUltraMobilePCの破損の原因となります。

注：本製品には、地域によって２芯または３芯のプラグが添付されています。3芯プラグの場合は、３芯用のコンセントまたは適応するアダプタを使用して安全にお使いください。

警告：使用中は高温になることがあります。身体に密着して使用しないでください。火傷の原因になります。

バッテリパックを使用する

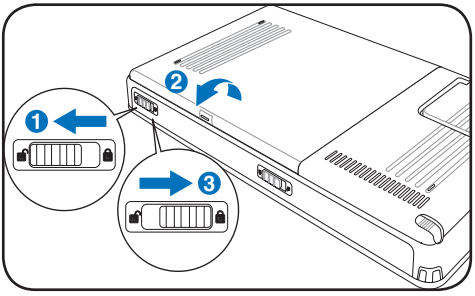
本製品のバッテリパックは取り外しが可能です。バッテリパックは、電池をまとめて1つにしたもので、フル充電の状態なら何時間もの電力を供給します。また、BIOSでのパワーマネジメント機能を利用してより長く電力を保つことができます。予備のバッテリパックは、販売店で別途購入可能です。

バッテリパックの取り付けと取り外し

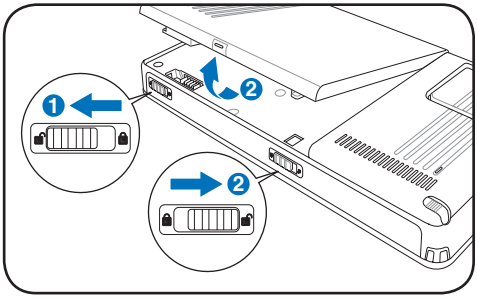
出荷時にバッテリパックが取り付けられていない場合があります。取り付けられていない場合は、次の手順で取り付けてください。

重要：UltraMobilePC の電源をオンにしているときは、絶対にバッテリパックを取り外さないでください。データ消失の原因となることがあります。

バッテリパックの取り付け方法



バッテリパックの取り外し方法



重要：バッテリパックとACアダプタは、本UltraMobilePC付属のもの、または本モデル用にメーカーや販売店が指定したものを使用してください。UltraMobilePC の故障の原因となります。

バッテリの取り扱い方

UltraMobilePC'のバッテリパックは、ほかの充電可能なバッテリと同じく消耗品です。寿命は温度や湿度、およびUltraMobilePCの使い方によって異なります。理想的なバッテリの操作温度範囲は5℃～35℃ですが、UltraMobilePCの内部温度は外部温度より高くなることを考慮に入れる必要もあります。この範囲外の温度で使用すると、バッテリの寿命は短くなります。また、正しく使った場合でも、バッテリパックの稼働時間は次第に短くなります。バッテリパックを買い換える際は、正規代理店にてお買い求めください。また、バッテリは使わなくても寿命があるので、予備のバッテリの買い置きはおすすめしません。

警告：危険ですので、バッテリを火中に投じないでください。また回路をショートさせたり、分解したりしないでください。衝撃により異常やダメージがバッテリパックに発生した場合はUltraMobilePCの電源を切り正規サービスセンターにお問い合わせください。

電源をオンにする

電源をオンにすると、UltraMobilePCの電源オンメッセージがスクリーンに表示されます。必要に応じ、ホットキーを使用して輝度を調節することができます。システム構成を設定または修正するためにBIOSセットアップを実行する場合は、起動時に<F2>を押してBIOSセットアップに入ります。スプラッシュスクリーンの間に<Tab>を押すと、BIOSバージョンなどの起動情報が表示されます。<ESC>を押すと、利用可能なデバイスから選択して起動するための、起動メニューが表示されます。

注：起動する前に、再度電源をオンにするとディスプレイパネルが点滅します。これはUltraMobilePCのテストルーチンの一部で、ディスプレイの故障ではありません。

重要：ハードディスクドライブを守るために、電源が切れてから再度電源を入れるまで５秒以上時間をおいてください。

警告：電源がオンのまま本製品を持ち運ばないでください。またキャリーバッグに入れたり、カバーをしたりしないでください。通気が悪くなり故障の原因となります。

パワーオンセルフテスト（POST）

UltraMobilePCの電源をオンにすると、パワーオンセルフテスト（POST）と呼ばれる一連のソフトウェア制御の診断テストが実行されます。POSTを制御するソフトウェアは、UltraMobilePCアーキテクチャの固定部分としてインストールされています。POSTにはUltraMobilePCのハードウェア構成に関する記録が含まれており、システムの診断チェックに使用されます。この記録は、BIOSセットアッププログラムを使用することによって作成されます。POSTが記録と既存のハードウェア間の相違を検出すると、BIOSセットアップを実行することによって、相違を訂正するように要求するメッセージがスクリーンに表示されます。テストが完了すると、ハードディスクにOSがインストールされていない場合は、「OSが見つかりません」というメッセージが表示されます。これは、ハードディスクが正しく検出され、新しいOSをインストールする準備ができたことを示します。

S.M.A.R.T.

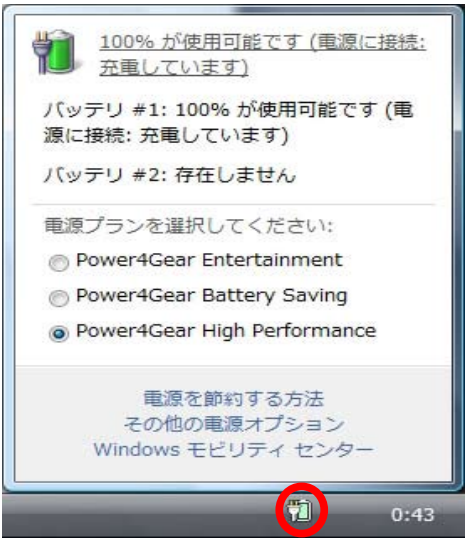
S.M.A.R.T.（Self Monitoring and Reporting Technology）はPOST中にハードディスクドライブをチェックし、ハードディスクドライブを修理する必要がある場合、警告メッセージを表示します。起動中にハードディスクドライブの警告が表示されたら、データを直ちにバックアップしWindows のディスクチェックプログラムを実行してください。このディスクチェックプログラムを実行するには、「スタート」ロゴ→「コンピュータ」→ハードディスクドライブのアイコンを右クリック→「プロパティ」→「ツール」タブ→「チェックする」→「開始」を選択します。「不良セクタをスキャンし、回復する」を選択すると、時間はかかりますがより詳細なスキャンと回復作業を行うことができます。なお、警告メッセージが頻繁に表示される場合は、サポートセンターにご相談ください。

重要：ディスクチェックユーティリティを実行した後にも、起動中にメッセージが表示される場合、UltraMobilePCを修理に出す必要があります。そのまま使用すると、データが消失することがあります。

バッテリの残量の確認

この機能ではバッテリ残量をパーセンテージで正確に表示します。フル充電のバッテリで2～3時間UltraMobilePCを起動させることが可能ですが、実際は、省電力機能をどのように使うか、またCPUやメモリ、ディスプレイパネルのサイズによっても異なります。

注：写真は参照用です。実際はシステムにより異なる場合があります。



バッテリアイコンをクリック

バッテリアイコンを右クリック

電源アダプタ未接続時のバッテリアイコン

電源アダプタ接続時のバッテリアイコン

注：バッテリ残量が少ないままパソコンを使い続けると、パソコンはスリープ状態になります。(Windows 初期設定値はSTR)

警告：Suspend-to-RAM（STR）状態でも一定の電力を消費するため、バッテリ残量が少ないと長時間維持できません。Suspend-to-Disk（STD）状態では消費電力は大幅に減りますが、これも電源がOFFの状態とは異なるので、電源が完全になくなるとパソコンは切れてしまいます(電源アダプタもバッテリも取り外した場合など)。

バッテリパックを充電する

外出先でUltraMobilePCを使用する前に、まずバッテリパックを充電する必要があります。UltraMobilePCにACアダプタを接続することで充電は開始されます。新しいバッテリパックを使用の際は、バッテリパックをフル充電してください。バッテリパックを完全に充電するのに、電源をオフにしているときは2～3時間かかり、オンにしているときはその倍の時間がかかります。バッテリパックの充電が完了すると、バッテリの充電ランプがオフになります。

注：気温が高すぎたり、電圧が高すぎるとバッテリは充電されません。また、BIOSでバッテリのキャリブレーションを行うことができます。正常にキャリブレーションが行えない場合は充電を中止し、正規サービスセンターにお問い合わせください。

警告：バッテリは放電状態のまま放置しないでください。また、充電機能を維持するため、使用しないときは最低３ヶ月に１回充電してください。

電源オプション

Power スイッチは、電源のオン/オフの切り替えや、スリープモード/休止モードに切り替える際に使用します。Power スイッチの動作はコントロールパネルの「電源オプション」でカスタマイズすることができます。

「ユーザーの切り替え」や「再起動」などを実行する場合は、「▶」をクリックします。

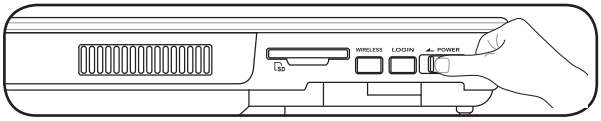
再起動

OSの設定を変更した後などは、システムを再起動するように求められます。一部のインストールプログラムでは、再起動を促すダイアログボックスが表示されます。システムを手動で再起動する場合は、「**再起動**」を選択します。

重要：HDD の保護のため、電源をオフにしてからもう1度電源を入れるまで最低５秒待機してください。

緊急時のシャットダウン

システムが正しくシャットダウンできない、または再起動できない場合は、Power スイッチ ⏻ を４秒以上スライドし続けてください。



重要：データ書き込み中に、緊急シャットダウンをしないでください。データ消失の原因となります。

電源管理

UltraMobilePCには多くの省電力機能が搭載されており、バッテリの寿命を最大限に伸ばし、総所有コスト（TCO）の削減に有効です。BIOSセットアップの「Power」メニューを通して、これらの機能の一部を設定することができます。ACPI 電源管理設定はOSを通して行えます。電源管理機能はコンポーネントを頻繁に低消費電力モードにする一方、システムの要求に最大限対応可能で、可能な限り電力を節約できるように設計されています。

スリープと休止状態

電源管理設定はWindows の「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。左メニューの各項目を選択すると、「電源ボタンを押したときの動作」、「スリープボタンを押したときの動作」、「カバーを閉じたときの動作」がそれぞれカスタマイズ可能です。選択オプションはドロップダウンリストから選択してください。「スリープ」と「休止状態」は、一部のコンポーネントをオフにすることによって、UltraMobilePCノートパソコンを使用していないときの電力を節約します。作業を再開すると、最後の状態が（例えば、半分ほどスクロールしたドキュメントや途中まで入力した電子メール）再表示されます。「シャットダウン」は全てのアプリケーションを終了します。

「スリープ」はSTR（Suspend to RAM）と同じです。この機能は、多くのコンポーネントをオフにして、RAMに現在のデータと状態を保存します。RAMは不安定であるため、データを維持（リフレッシュ）するには一定の電力が必要です。

・操作方法：「スタート」→「▶」→「スリープ」を選択
　または、ショートカットキー<**Fn F1**>を押す
・復帰方法：<Fn>以外の任意キーを押す
　（注：スリープモードでは電源インジケータは点滅）

「休止状態」はSTD（Suspend to Disk）と同じでハードディスクドライブに現在のデータと状態を保存します。また、RAMを周期的にリフレッシュしないため「スリープ」よりも節電効果が高く、消費電力を大幅に抑えます。ただし、LANやモデム等の一部の呼び起こし用のコンポーネントに電力を供給するため、完全にオフにはなりません。

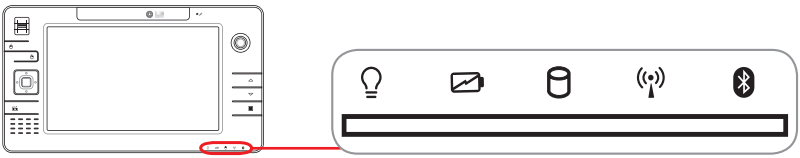
・操作方法：「スタート」→「▶」→「休止状態」
・復帰方法：電源ボタンを押す
　（注：休止状態では電源インジケータはオフ）

熱パワーコントロール

本製品は、3つの電源コントロールで熱を管理します。これらの電源コントロールは、ユーザー設定することはできません。次の温度は（CPUではなく）ケースの温度を表しています。

- 温度が上限に達すると、ファンがオンになってアクティブ冷却を行います。
- 温度が上限を超えると、CPUは速度を落としてパッシブ冷却を行います。
- 温度が最大上限を超えると、システムはシャットダウンして冷却を行います。

ステータスインジケータ



電源インジケータ

電源インジケータ点灯時はUltraMobilePCの電源がオン、点滅時はUltraMobilePCがスリープモードに入っています。このLEDがオフのときは、UltraMobilePCがオフまたは休止モードです。

バッテリ充電インジケータ

バッテリ充電インジケータは、次のようにバッテリの状態を示します。

オン：UltraMobilePCのバッテリが充電中
オフ：UltraMobilePCのバッテリが充電された、または残量がゼロ
点滅：オンのときバッテリの残量が10%以下で、アダプタが接続されていない状態

ドライブアクティビティインジケータ

UltraMobilePCがハードディスク等の、1つ以上の記憶装置デバイスにアクセスしていることを表示します。インジケータはアクセス時間に比例して点滅します。

無線 LAN インジケータ

無線LAN（WLAN）を内蔵するモデルでのみ使用可能です。このインジケータが点灯していると、UltraMobilePCに内蔵のWLAN機能がアクティブになっていることを示します。（Windowsソフトウェア設定が必要です。）

Bluetooth インジケータ

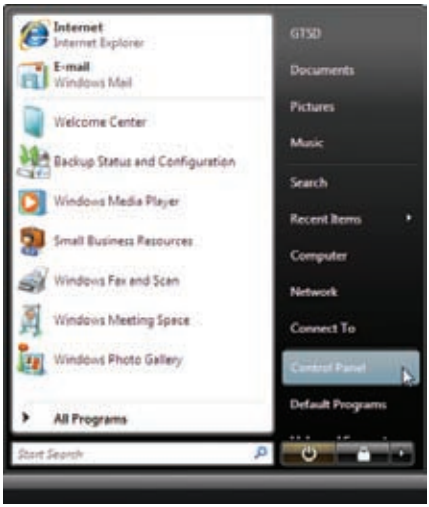
Bluetooth を内蔵するモデルでのみ使用可能です。 このインジケータが点灯していると、UltraMobilePCに内蔵のBluetooth 機能がアクティブになっていることを示します。

4. UltraMobilePC を使用する

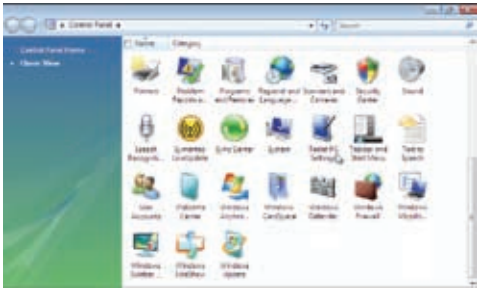
ディスプレイキャリブレーション
接続
ネットワーク接続
無線LAN 接続（特定モデルのみ）
Windows 無線ネットワーク 接続
Bluetooth 無線接続（特定モデルのみ）
指紋スキャナー（特定モデルのみ）
GPS ソフトウェア（アメリカ合衆国・ヨーロッパのみ）
3 G Watcher ソフトウェア（特定モデルのみ）

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

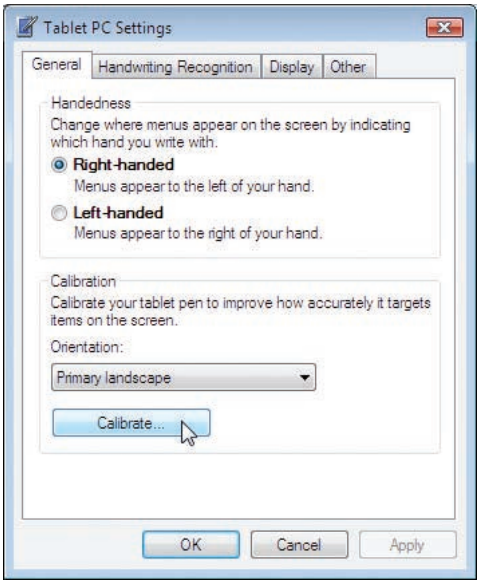
ディスプレイキャリブレーション



1. Windows「Start」ボタンから「Control Panel」を選択します。



2. 「Tablet PC Settings」アイコンをダブルクリックします。



3. 「General」の項目で「Calibrate」ボタンをクリックします。

4. 各コーナーの近くに表示される十字の中央を慎重にタップして、キャリブレーションプロセスを完了してください。

接続

ネットワーク接続

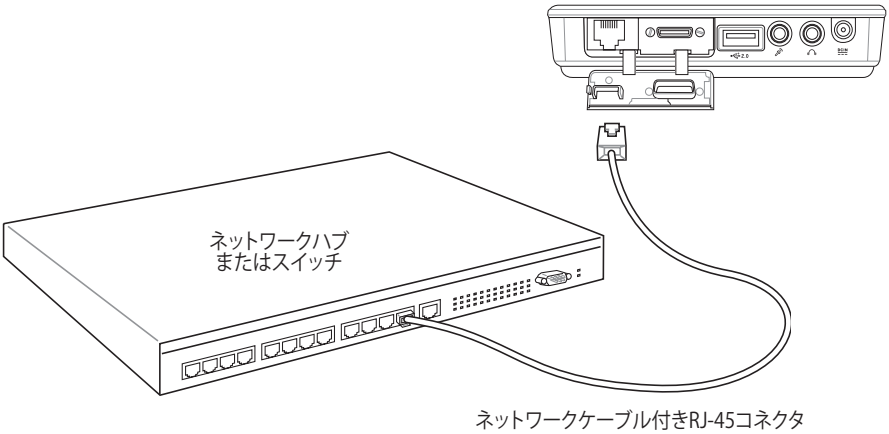
RJ-45のコネクタが両端に付いているケーブルを使用します。ケーブルの一方をUltraMobilePC上のネットワークポートに、もう一方をハブまたはスイッチの末端に繋ぎます。100 BASE-TX / 1000 BASE-T の場合は、カテゴリ5以上 (カテゴリ3ではない) のネットワークケーブルとツイストペアケーブルが必要です。 100 / 1000Mbps のインターフェイスで稼動する予定の場合は、100 BASE-TX ハブ / 1000 BASE-T ハブ (BASE-T4ハブではない) に接続する必要があります。10BASE-Tの場合はカテゴリ3、4、または5のツイストペアケーブルを使用します。10/100 Mbps Full-Duplex (全二重) はこのUltraMobilePCでサポートされていますが、「Duplex (二重) 」を有効にしてスイッチングハブに接続する必要があります。ソフトウェアの初期設定には最適の設定が使用されています。

1000BASE-T（またはGigabit）は特定モデルのみでのサポートです。

ツイスト線ケーブル

イーサネットカードをホスト（一般には、ハブまたはスイッチ）に接続するために使用されるケーブルは、TPE（ツイストペアイーサネット）ケーブルと呼ばれています。エンドコネクタはRJ-45コネクタと呼ばれ、RJ-11電話コネクタと互換性がありません。ハブを介さずに２台のコンピュータを接続する場合、クロスケーブルが必要です(ファストイーサネットモデル)。ギガビットモデルは自動クロスオーバー機能に対応していますのでクロスケーブルはオプションです。

下の図は、ネットワークのハブまたはスイッチとUltraMobilePCの内蔵イーサネットコントローラとを接続した例です。



無線 LAN 接続 (特定モデルのみ)

オプションの内蔵無線 LAN は、コンパクト設計の無線イーサネットアダプタです。無線 LAN (WLAN)対応の IEEE 802.11 規格に対応し、周波数2.4GHz/5GHz 、DSSS (Direct Sequence Spread Spectrum) とOFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplexing) 技術で高速データ通信を可能にしました。また、IEEE 802.11 規格にも下位互換性があります。

このオプションの内蔵無線 LAN はクライアントアダプタで、インフラストラクチャモードとアドホックモード両方に対応。無線ネットワークの設定に幅がでます。アクセスポイントとクライアントの距離は最高40メートルです。

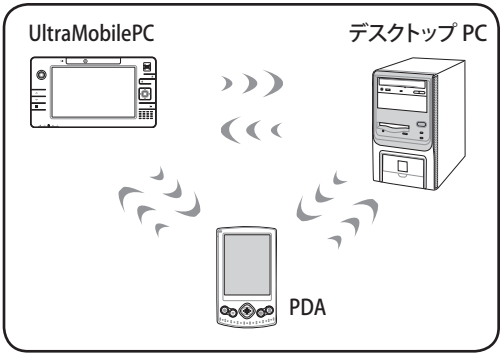
セキュリティをより効果的にするため、オプション内蔵無線LANには 64bit/128bit WEP (Wired Equivalent Privacy) 暗号化方式とWPA (Wi-Fi Protected Access) 機能が採用されています。

これらは無線ネットワークの一例です。

アドホックモード

UltraMobilePCを他の無線デバイスに接続することができます。アクセスポイントは不要です。

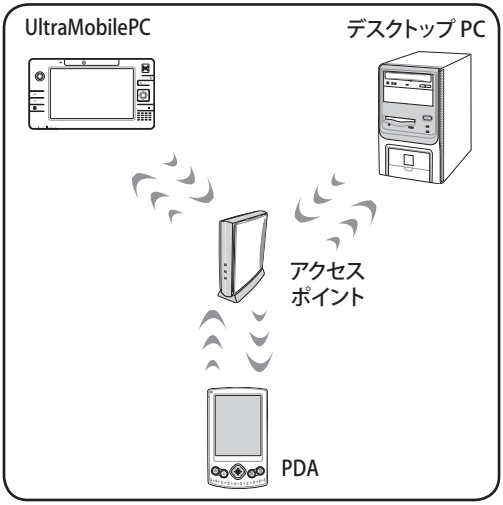
(全てのデバイスにオプションの 802.11 無線 LAN アダプタの取り付けが必要)



インフラストラクチャモード

UltraMobilePCと他の無線デバイスをアクセスポイント (別売り) で構築された無線ネットワークに加えることができます。無線クライアント用にセントラルリンクを提供し、無線ネットワーク同士または有線ネットワーク間のコミュニケーションが可能です。

(全てのデバイスにオプションの 802.11 無線 LAN アダプタの取り付けが必要)

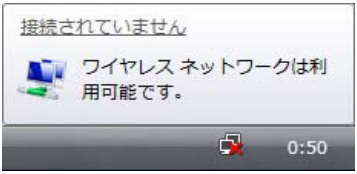


Windows 無線ネットワーク接続

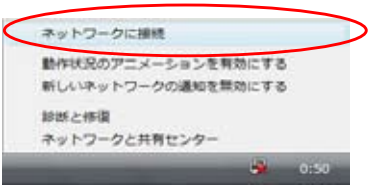
ネットワークに接続する（Windows Vista）

1. 「Wireless LAN ON 」または「WLAN & Bluetooth ON」と表示されるまで [WIRELESS] ボタンを繰り返し押します。

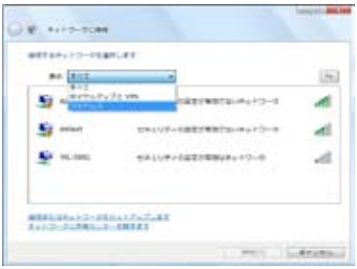
1b. または、タスクバーの「Wireless Console」アイコンをダブルクリックし、１つ目のアイコンをクリックして「Wireless & Bluetooth」を有効にします。２つ目のアイコンをクリックして「Wireless」のみ有効にすることもできます。



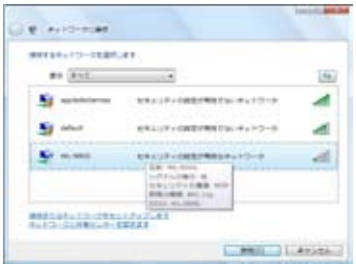
2. 接続されていないことを示すアイコンが表示されます。



3. WLAN アイコンを右クリックし、「ネットワークに接続」を選択します。

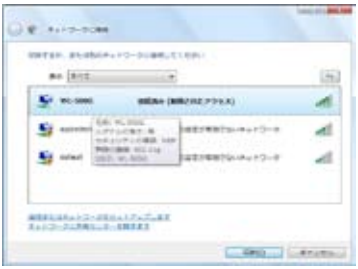


4. 複数のネットワークがある場合は「すべて」を選択します。



5. 接続するワイヤレスネットワークを選択します。

6. 接続する際にはパスワードの入力が必要です。



7. 接続が確立すると、「接続済み」と表示されます。

Bluetooth 無線接続(特定モデルのみ)

Bluetooth 付きのUltraMobilePCは、ケーブル接続が不要です。ノートブックPC、デスクトップPC、携帯電話、PDA等のBluetooth対応デバイスを使用することができます。

注:お使いの UltraMobilePC に内蔵Bluetooth が搭載されていない場合は、USBまたは PCカードBluetooth モジュールの接続が必要です。

Bluetooth 対応携帯電話

携帯電話と無線接続が可能です。機種により、電話帳や画像、音声ファイル等の転送が可能です。また、インターネット接続の際のモデムとしても使用することができます。ショートメールも使用することができます。

Bluetooth 対応コンピュータ/PDA

他のPCやPDAに無線接続し、データや周辺機器、インターネット接続の共有が可能です。また、Bluetooth 対応の無線キーボードやマウスも利用することができます。

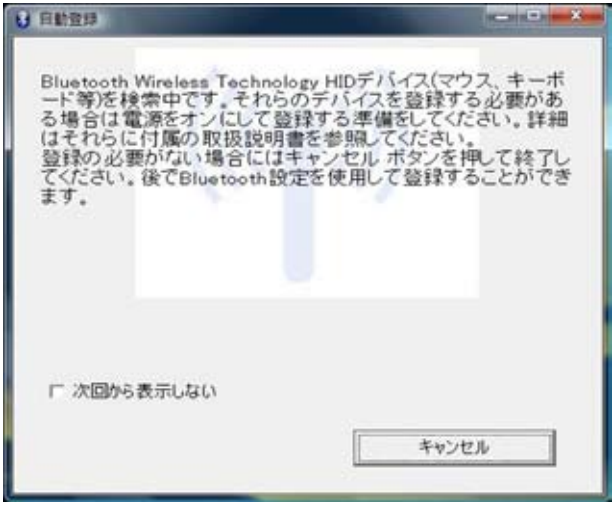
Bluetooth ユーティリティを起動する(Windows Vista)

Bluetooth のセットアップ方法は機種によって異なります。

Windows のセットアップが終了後、下記の画面が出現する場合、セットアップ方法 A をご参照ください。

Windows のセットアップが終了後、下記の画面が一切出現しない場合、セットアップ方法 B をご参照ください。

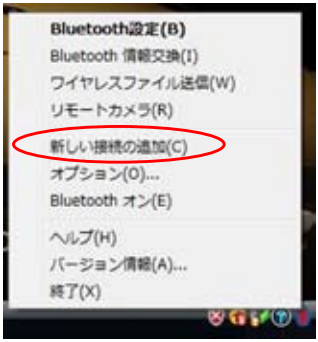
詳細は巻末の「付録」をご覧ください。



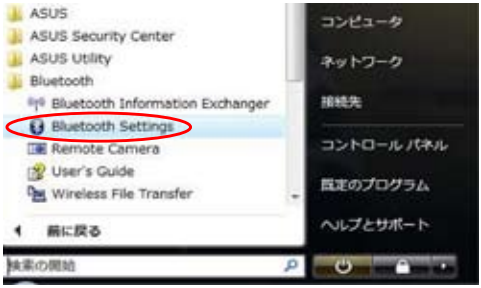
Bluetooth Mouse のセットアップ方法 A（詳細 P.54、55）

1. 「BluetoothON」または「WLAN&BluetoothON」が表示されるまで[WIRELESS]ボタンを押します。

1b. または、タスクバーの「Wireless Console」アイコンをダブルクリックし、１つ目のアイコンをクリックして「Wireless & Bluetooth」を有効にします。３つ目のアイコンをクリックして「Bluetooth」のみ有効にすることもできます。

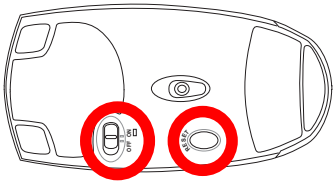


2. Windows タスクバーに表示される Bluetooth アイコンを右クリックし、「新しい接続の追加」を選択します。



2b. または、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」から「Bluetooth Settings」を選択します。

3. Bluetooth 設定画面で「新しい接続」をクリックします。



4. Bluetooth マウスの準備

- 単三電池を２本入れます。
- マウス底面にある電源スイッチで、電源をオンにします。オンになるとセンサーが赤く点灯します。
- マウス底面にある「RESET」ボタンを押します。

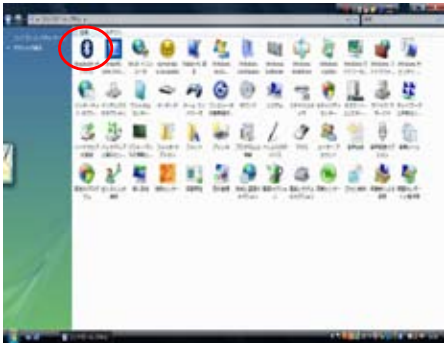
以降の手順はP.55をご参照ください。

Bluetooth Mouse のセットアップ方法 B（詳細 P.56、67）

1. 「BluetoothON」または「WLAN&BluetoothON」が表示されるまで[WIRELESS] ボタンを押します。

1b. または、タスクバーの「Wireless Console」アイコンをダブルクリックし、１つ目のアイコンをクリックして「Wireless & Bluetooth」を有効にします。３つ目のアイコンをクリックして「Bluetooth」のみ有効にすることもできます。

2. タスクバーの「Bluetooth デバイスの追加」を選択します。



2b. または、コントロールパネルから「Bluetooth デバイス」を起動します（図はクラシック表示）。

以降の手順はP.57をご参照ください。

OSとソフトウェア

本UltraMobilePCは、**Microsoft Windows** OSが予めインストールされています。OSは選択可能ですが、選択可能なOSと言語は地域によって異なります。また、ハードウェアとソフトウェアのサポートのレベルは、インストールしたOSによって異なります。なお、サポート外のOSの安定性と互換性は保証できません。

サポートするソフトウェア

本UltraMobilePCにはBIOS、ドライバ、アプリケーションをコンテンツに含むサポートディスクが付属しています。UltraMobilePCのハードウェア特性を有効にし、機能を拡張し、管理を容易にします。また、OSで提供していない機能を追加することもできます。サポートディスク 内のドライバ等の更新や交換が必要になった場合は、Webサイトから個別のソフトウェアドライバやユーティリティをダウンロードしてください。

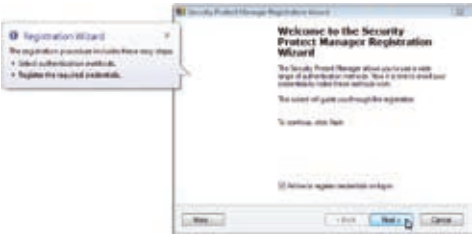
サポートディスクには、予めインストールされたものも含め、OS用のドライバ、ユーティリティ、ソフトウェアが全て含まれています。ただし、 OS自体はサポートディスクには含まれていません。出荷時にインストールされていないソフトウェアをインストールする際等にサポートディスクをご使用ください。

リカバリディスクはオプションで、出荷時にハードディスクドライブにインストールされているOSデータが含まれています。リカバリディスクはUltraMobilePC の包括的な回復ソリューションを提供します。 ハードディスクドライブが良好な作動状態であれば、UltraMobilePCのOSを出荷時の状態に素早く復元します。なお、この作業が必要になったときは、販売店にお問い合わせください。

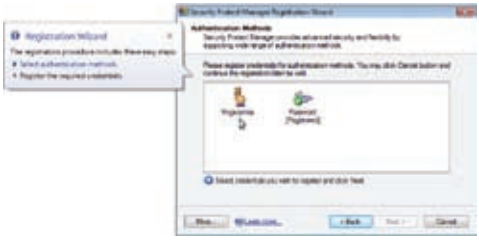
注: デバイスドライバやユーティリティをインストールしないと動作しないコンポーネントや機能もあります。

指紋スキャナー（特定モデルのみ）

指紋スキャナーでは、ユーザーの指紋を登録することで、ユーザー認証を短時間で行うことができます。指紋の登録は以下の手順に沿って行ってください。

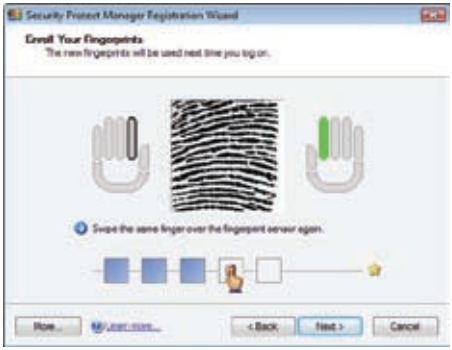


1. TPMをBIOSで有効にすると、このWizardが開きます。「Next」をクリックします。

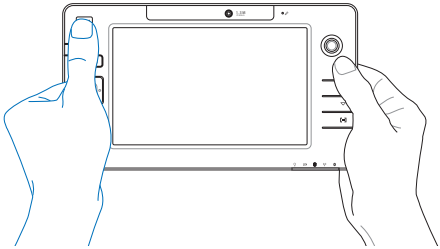


2. 「Fingerprints」を選択し、「Next」をクリックします。

3. スキャンする指を図から選択し、ゆっくりスキャンします。その後の指示に従いスキャンを繰り返します。

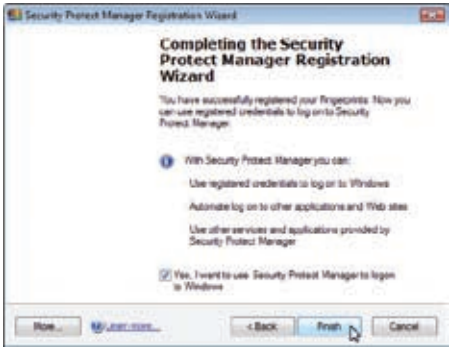


4. 最低２つの指紋の登録が必要です。



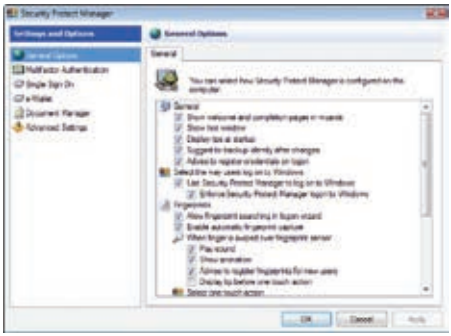
指紋スキャナー（特定モデルのみ）（続き）

5. スキャンする指を図から選択し、ゆっくりスキャンします。その後の指示に従いスキャンを繰り返します。最低２つの指紋の登録が必要です。



6. 完了したら「Finish」をクリックします。

7. タスクバーのアイコンを右クリックし、「Settings and Options」を選択します。

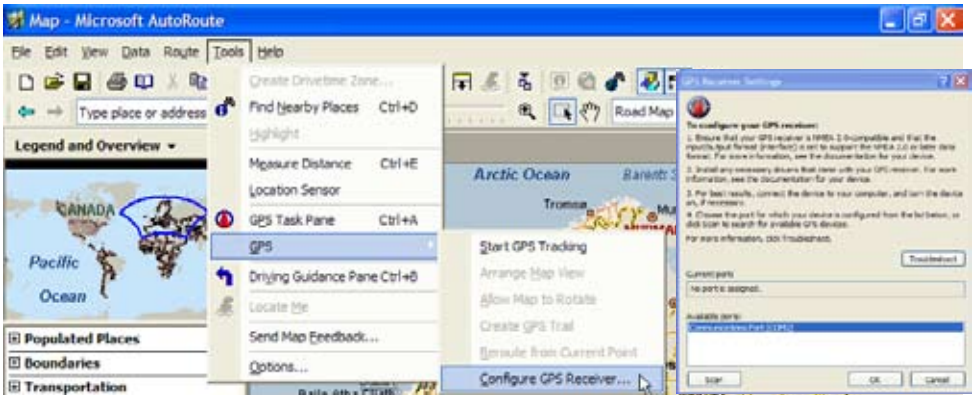


8. 「General Options」と「Single Sign On」を選択し、各カスタマイズ設定を行います。

GPS ソフトウェア（アメリカ合衆国・ヨーロッパのみ）

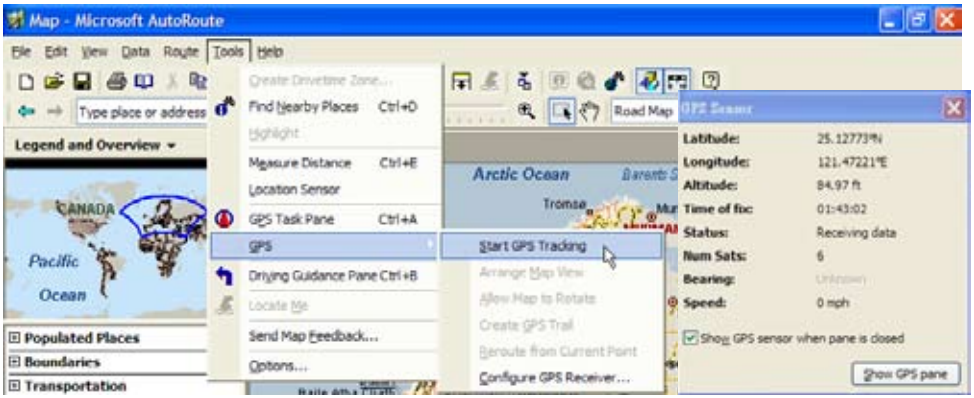
本ソフトウェアは内蔵の GPS システムと共に使用します。

「Tools」→「GPS」→「Configure GPS Receiver...」→「COM2」を選択し、「OK」をクリックします。



「Tools」→「GPS」→「 Start GPS Tracking」を選択します。

ユーザーの位置が衛星に完全に認識されると、GPS Sensor に情報が表示されます。



3G Watcher ソフトウェア（特定モデルのみ）

３Ｇ Watcher ソフトウェアを使用すれば、通常の３Ｇ 対応携帯端末を利用して UltraMobilePC ３Ｇ無線ネットワークに接続することができます。接続すれば無線ネットワークを使用する感覚で UltraMobilePCをインターネットに接続できるようになります。このソフトウェアをインストールすると、ショートカットアイコンがデスクトップに表示されます。３Ｇ Watcher を起動する際はアイコンをダブルクリックしてください。

３Ｇ Watcher アプリケーションを起動します。SIM カードのパスワード（PIN1）を設定した場合、起動時に入力してください。

PIN が認証されると、３Ｇ ネットワークの検索を始めます。

３Ｇ ネットワークが検出されたら、「**Connect**」をクリックして無線ネットワークに接続します。

接続が確立すると、「Connect」ボタンは「Disconnect」ボタンに変わります。

接続が確立すると、上のようなメッセージが表示されます。

無線通信が利用できない環境では（飛行機の中など）、「Tools」のメニューから「**Turn Radio Off**」を選択してください。

無線通信をオフにすると、信号の強さを表示するインジケータ上に「x」マークが表示されます。

3G Watcher ソフトウェア（特定モデルのみ）（続き）

Watcher のウィンドウ

メインウィンドウ上のアイコンとインジケータ

Watcher のメインウィンドウには、各種情報が表示され、データ接続の開始と監視、また、通話が可能です（お使いの３Gモデムとプロバイダが音声サービスをサポートしている場合）。メインウィンドウはこれらのインジケータを使用します。

	デバイスの状態：３G モデムのアイコンが「X」マークと共に表示された場合、Watcher は３Gモデムを検出することができません。これは、３Gモデムが PC カードスロットに完全に挿入されていない(非埋め込み式のモデムの場合)、またはデバイスがオフまたは無効になっていることを意味します。以下の方法で解決することができます： • ３Gモデムを取り出し、再び挿入します。 • PCのWWAN スイッチをオフにし、オンにします。
	信号の強さとサービスの状態：アンテナの横のバーは、信号の強さに応じて最大５本まで増加します。マウスポインタをこのインジケータ上に置いたときに表示されるToolTip は dBm での RSSI（Received Signal Strength Indication）を表示します。 このアイコンはサービスが利用できないことを意味します（サービス停止）。受信サービスエリア外にいるか、GSMデータ接続を維持する信号の強さが十分ではありません。
	受信サービス：以下のアイコンは利用できる最速のサービスを意味します。
gprs	• GPRS アイコン ー GPRSが現在の受信サービスエリアで利用できる最速のサービスです。
edge	• EDGE アイコン ー EDGE が現在の受信サービスエリアで利用できる最速のサービスです。（EDGE ３Gモデムでのサポート）
3G	• ３G アイコン ー UMTS が現在の受信サービスエリアで利用できる最速のサービスです。（UMTS ３Gモデムでのサポート）
HS	• HS アイコン ー HSDPAが現在の受信サービスエリアで利用できる最速のサービスです。（HSDPA ３Gモデムでのサポート）
	文字のみが表示される場合（例： edge ）、受信サービスエリア内にいますが、サービスを取得していません。 インジケータが次のように表示される場合（ edge ）、サービスを取得しており、データ接続を構築することができます。 インジケータが次のように表示される場合（ edge ）、無線サービスにデータ接続しています。

（事項に続く）

3G Watcher ソフトウェア（特定モデルのみ）（続き）

	ローミング：地域のプロバイダ以外のネットワークに接続しています。ローミングサービスには追加料金が必要な場合があります。(このサービスは利用できない場合があります)
	新しいSMSメッセージ：アイコンをクリックし、SMS Expressウィンドウを開いてメッセージを確認します。SIMの容量がいっぱいになった場合、このアイコンは点滅し、赤くなります。（特定デバイスでのみサポート）
	データ送信：モデムがネットワークに接続されている場合、メインWatcherウィンドウが送受信したデータ量を表示します。

サービスプロバイダがGSMコマンド（コードまたはプロシージャとも呼ばれる）を入力するように要求した場合は、メインウィンドウからコマンドを入力します。

システムトレイアイコン

Watcher が起動中の場合は常にWatcher アイコンがシステムトレイに表示され、接続状態を表示します。

	Watcher が３Gモデムを検出できません。３Gモデムの電源がオンになっていることを確認してください。
	高速接続がアクティブではありません。
	高速接続がアクティブです。
	新しい（未読） SMS メッセージがあります。

３G（または3-G）（特定モデルのみ）

３rd Generation（第三世代）モバイルネットワーク技術のことを略してこう呼びます。携帯電話標準規格のコンテクストで使用されます。３Gと関連したサービスにより、ボイスデータ（電話での通話）とノンボイスデータ（情報のダウンロード、Eメール交換、インスタントメッセージなど）の両方を同時に転送することができます。３Gサービス市場において、３G用の主流のアプリケーションとしてビデオテレフォニーが よく使用されています。特定モデルでは、３Gアプリケーションを使用するのに必要な３G SIMカード挿入用のSIMカードスロットが搭載されています。

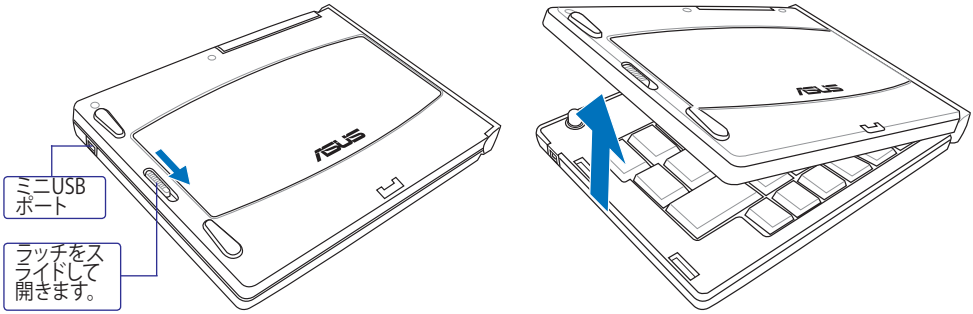
付録

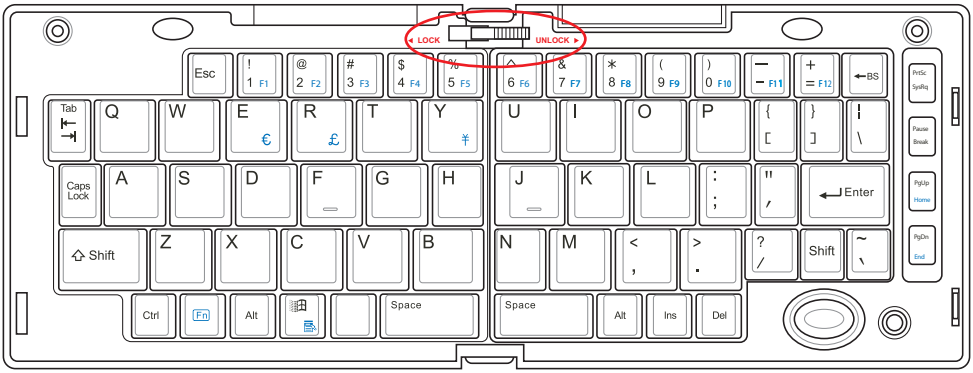
オプション（アクセサリ）
オプション（その他のアクセサリ）
オプション（接続）
Bluetooth Instruction Giideline
用語集
Certifications

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

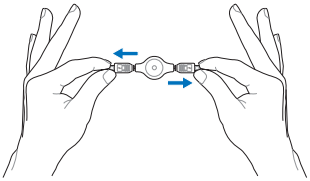
オプション（アクセサリ）

折り畳み式USB キーボード（リカバリー実行時に必要となります。）

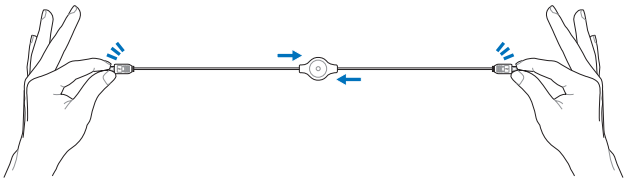




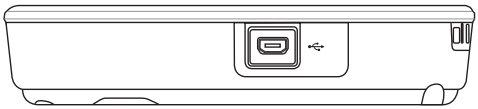
上部のラッチをスライドし、キーボードを開いた位置でロックします。



拡張：USB コネクタを引く（完全にではなく）とミニUSB ケーブルを拡張できます。（注：完全に引くと、ケーブルが格納されます。）



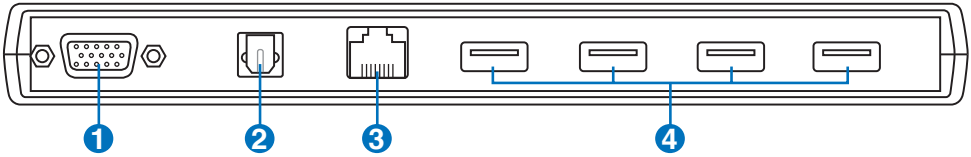
格納：USB コネクタを完全に引くと、内部のバネが自動的にミニUSB ケーブルを格納します。



ミニUSB ケーブルを、折り畳み式 USB キーボード（左側）とUltraMobilePCのミニUSB ポート（左側）に接続します。

ポートバー

注：（1）AC 電源アダプタをご使用ください。UltraMobilePC がバッテリモードの場合は使用できません。（2）UltraMobilePC とポートバーの全てのポートを使用している時は2つのAC 電源アダプタ（UltraMobilePC とポートバーのもの）の使用をお勧めします。（3）接続時はUltraMobilePCのLAN ポートを無効にしてください。



1 ディスプレイ（モニタ）出力（付属のアダプタを使用）

D-sub 15ピンモニタポートは、モニタやプロジェクタなどの標準のVGA互換デバイスをサポートし、それらに画面を表示することが可能です。

2 S/P DIF 出力ジャック（S/PDIF 出力）

デジタルオーディオ出力のためのS/P DIF（Sony/Philips Digital Interface）デバイスを接続できます。hi-fi ホームエンターテイメントシステムとしてご利用できます。

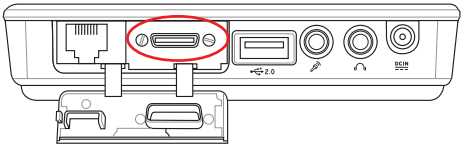
3 LAN ポート（ポートバー使用時は無効）

8ピンのRJ-45 LAN ポートはRJ-11モデムポートよりも大きく、ローカルネットワークに接続するための標準イーサネットケーブルをサポートします。増設アダプター不要の便利な内蔵コネクタです。

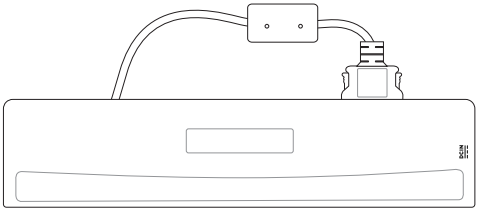
4 USBポート (2.0/1.1)

USBポートはキーボードやポインティングデバイス、ビデオカメラ、モデム、ハードディスクデバイス、プリンタ、モニタ、スキャナーなどの、最高12Mbits/秒（USB 1.1）または480Mbits/秒（USB 2.0）の機器に接続するUSB 2.0/USB 1.1 デバイスとの互換性があります。USB はハブのように機能するUSBキーボードやモニタなどの周辺機器と併用すれば、1 台のコンピュータで同時に複数のデバイスの使用が可能になります。また、USBはホットプラグを採用しているので、周辺機器の取り付け・取り外しが再起動せずに行えます。

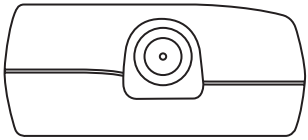
ポートバー（続き）



ポートバーを拡張ポートに接続します。



不使用時は、端子部分を保護するため、ポートバーコネクタを格納してください。



UltraMobilePCの電源アダプタをこの電源ポートに接続してください。これにより、コネクタ１本で使い易いドッキングソリューションを提供します。

警告：ポートバー使用時は、電源アダプタを UltraMobilePC またはポートバーに接続する必要があります。UltraMobilePC がバッテリモードで動作しているときは、ポートバーを使用しないでください。

オプション（その他のアクセサリ）

USBハブ(オプション)

オプションのUSB ハブを接続し、USBポートを追加すれば、1本のケーブルを通して多くのUSB周辺装置への接続/取り外しが簡単に行えるようになります。

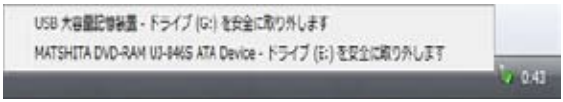
USBフラッシュメモリディスク

USB フラッシュメモリディスクは、1.44MB フロッピーディスクに代わり、より高い転送速度と耐久性を実現しながら、数百メガバイトのデータを記憶することができます。現在のOSで使用するとき、ドライバは必要ありません。

USB フロッピーディスクドライブ

オプションのUSBインターフェースFDDを装備すると、標準の1.44MB (または720KB) 3.5インチフロッピーディスクが使用可能です。

警告：システム障害を避けるために、USB FDDを取り外す際は、タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」を利用してください。UltraMobilePCを移動させる場合はフロッピーディスクを取り出してください。衝撃で損傷することがあります。



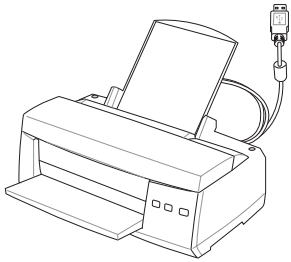
ビークル電源アダプター

車での移動中などAC電源が利用できない場合に、UltraMobilePCの電源供給とバッテリパックの充電に使用します。車等での移動が多いユーザーに最適のツールで、お使いのコンピュータの電源パフォーマンスと移動性が向上します。このアダプターは車両またはボート等の標準シガーライターソケットに接続します。入力電圧レンジは10.8VDC～16VDC、最大出力は19VDC、120Wです。

オプション（接続）

プリンタ接続

1台または複数のUSBプリンタを任意のUSBポートまたは
USB ハブに同時に接続することができます。

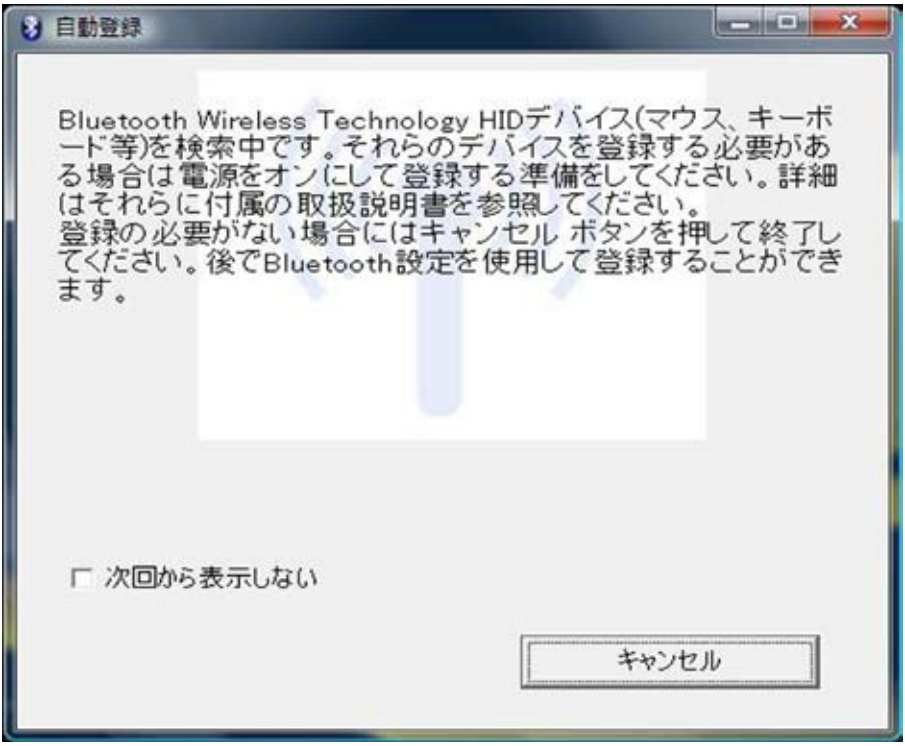


Bluetooth Instruction Guideline

Bluetooth のセットアップ方法は機種によって異なります。

Windows のセットアップが終了後、下記の画面が出現する場合、セットアップ方法 A（P.54、55）をご参照ください。

Windows のセットアップが終了後、下記の画面が一切出現しない場合、セットアップ方法 B（P.56、57）をご参照ください。



Bluetooth Mouse のセットアップ方法 A（オプション）

以下の手順に沿って、Windows 環境で一般的なBluetooth デバイスをセットアップすることができます。

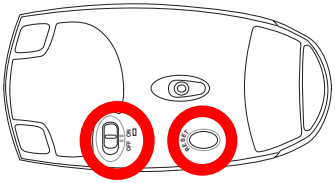
1. 「Bluetooth ON」または「WLAN & Bluetooth ON」が表示されるまで [WIRELESS] ボタンを押します。

1b. または、タスクバーの「Wireless Console」アイコンをダブルクリックし、１つ目のアイコンをクリックして「Wireless & Bluetooth」を有効にします。３つ目のアイコンをクリックして「Bluetooth」のみ有効にすることもできます。

2. Windowsタスクバーに表示されるBluetoothアイコンを右クリックし、「新しい接続の追加」を選択します。

2b. または、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」から「Bluetooth Settings」を選択します。

3. Bluetooth設定画面で「新しい接続」をクリックします。



4. Bluetooth マウスの準備

- 単三電池を２本入れます。
- マウス底面にある電源スイッチで、電源をオンにします。オンになるとセンサーが赤く点灯します。
- マウス底面にある「RESET」ボタンを押します。

Bluetooth Mouse のセットアップ方法 A（オプション）（続き）

5.「エクスプレスモード」を選択し「次へ」をクリック。

6.利用可能な Bluetooth デバイスが表示されます。「Bluetooth Travel Mouse」を選択し「次へ」をクリック。

7.ソフトウェアで、Bluetoothマウスが認識されます。「完了」をクリックして終了します。

8.終了すると上の図ように「Bluetooth Travel Mouse」アイコンが表示されます。

注：ソフトウェア/画面の表示内容はモデルやお住まいの地域により、若干異なることがあります。

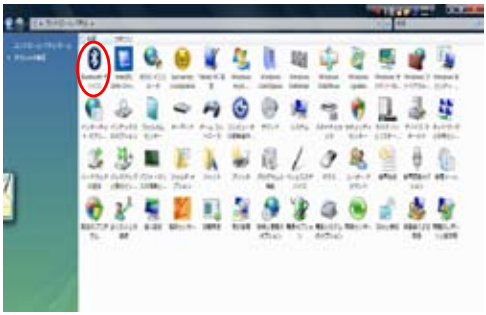
注：電池交換すると、リセット、セットアップが再度必要になることがあります。

Bluetooth Mouse のセットアップ方法 B（オプション）

以下の手順に沿って、Windows 環境で一般的なBluetooth デバイスをセットアップすることができます。

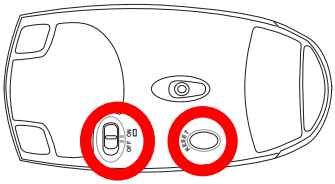
1. 「Bluetooth ON」または「WLAN＆Bluetooth ON」と表示されるまで [WIRELESS]ボタンを繰り返し押します。

1b. または、タスクバーの「Wireless Console」アイコンをダブルクリックし、１つ目のアイコンをクリックして「Wireless＆Bluetooth」を有効にします。３つ目のアイコンをクリックして「Bluetooth」のみ有効にすることもできます。



2. タスクバーの「**Bluetooth デバイスの追加**」を選択します。

2b. または、コントロールパネルから「**Bluetooth デバイス**」を起動します（図はクラシック表示です）。

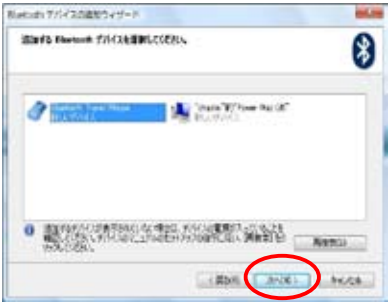


3. Bluetooth マウスの準備

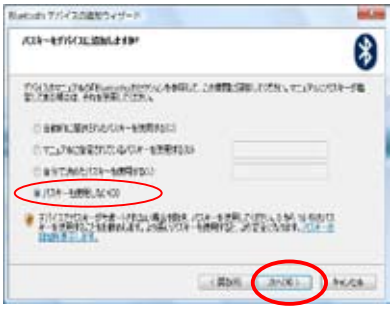
- 単三電池を２本入れます。
- マウス底面にある電源スイッチで、電源をオンにします。オンになるとセンサーが赤く点灯します。
- マウス底面にある「RESET」ボタンを押します。

Bluetooth Mouse のセットアップ方法 B（オプション）（続き）

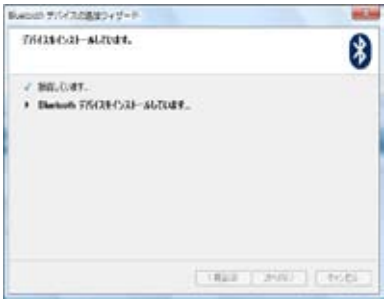
4. Bluetoothマウスが準備できたら、「次へ」をクリックします。



5. Bluetooth デバイスのリストが表示されたら、Bluetooth マウスを選択し、「次へ」をクリックします。



6. 「パスキーを使用しない」を選択し「次へ」をクリックします。



7. Bluetooth マウスが追加されるまで数秒かかります。

8. 追加されたら「完了」をクリックします。

注：ソフトウェア/画面の表示内容はモデルやお住まいの地域により、若干異なることがあります。

注：電池交換すると、リセット、セットアップが再度必要になることがあります。

用語集

ACPI (Advanced Configuration and Power Management Interface)

コンピュータシステムの統合的電源管理方式の規格。

APM (Advanced Power Management)

コンピュータシステムの節電方式の規格。

AWG (American Wire Gauge)

注:この表は一般的な参照用です。この表は最新ではなく、また完全でない可能性がありますので「American Wire Gauge」規格の原本として用いないでください。

Gauge AWG	Diam (mm)	Area (mm2)	R (ohm/km)	I@3A/mm2 (mA)
33	0.18	0.026	676	75
	0.19	0.028	605	85
32	0.20	0.031	547	93
30	0.25	0.049	351	147
29	0.30	0.071	243	212
27	0.35	0.096	178	288
26	0.40	0.13	137	378
25	0.45	0.16	108	477

Gauge AWG	Diam (mm)	Area (mm2)	R (ohm/km)	I@3A/mm2 (mA)
24	0.50	0.20	87.5	588
	0.55	0.24	72.3	715
	0.60	0.28	60.7	850
22	0.65	0.33	51.7	1.0 A
	0.70	0.39	44.6	1.16 A
	0.75	0.44	38.9	1.32 A
20	0.80	0.50	34.1	1.51 A
	0.85	0.57	30.2	1.70 A

BIOS (Basic Input/Output System)

バイオス:基本入出力システム。メモリ・ディスク・ビデオといったPCを構成する各種部品の制御を実行する。BIOSは基本的にコンピュータ内に格納され、コンピュータのROM上に展開して用いられる。BIOSの設定値はセットアッププログラムにより変更可能で、EEPROM書き込みツールでBIOSそのものをアップデート可能である。

Bit (Binary Digit)

ビット:コンピュータ上で使われるデータ量を表す最少単位。0または1の値を持つ。

Boot

ブート:メインメモリにOSをロードすることにより、コンピュータを起動することを言う。「起動する」「立ち上げる」とも言う。マニュアルに「ブートする」とあれば、それはコンピュータの電源をオンにすること。「リブート」は再起動のこと。

Bluetooth (特定モデルのみ)

近距離の無線技術で、コンピュータ、携帯電話、携帯端末を互いに無線接続し、またインターネットへの接続も可能にする。Bluetooth 技術により、デバイス接続が不要になる。Bluetoothを有効にしたデバイスの無線接続可能な範囲は、10 m 以内である。

Byte (Binary Term)

バイト：8bit で1Byte である。「B」とも書く。

Clock Throttling

チップセットが持つ、CPUのクロックを制御する機能。節電・温度管理・CPU速度の制御を行う。

CPU (Central Processing Unit)

中央演算処理装置：「プロセッサ」とも表記される。コンピュータの頭脳にあたる。処理に割り込みをかけ、命令を実行し、データをメモリに保存する。

Driver

デバイスドライバ：単にドライバともいう。ビデオ、サウンド、プリンタ、モデムといった機器をOSで制御できるようにする、それ専用の命令のセット。デバイスは装置の意味。

DVD (Digital Versatile Disk)

DVDは大きな高速CDで、ビデオだけでなくオーディオやコンピュータデータを保存できる。これらの容量とアクセス速度を持ったDVDディスクは、劇的に強化されたハイカラー、フルモーションビデオ、優れたグラフィックス、鮮明な画像、そしてDolby® Digitalサラウンドを提供して、劇場空間を実現。DVDはホームエンタテインメント、コンピュータ、ビジネス情報を単一のデジタルフォーマットで記録して、最終的にはオーディオCD、ビデオテープ、レーザーディスク、CD-ROM、さらにはビデオゲームカートリッジの媒体となることを目的としている。

Hardware

ハードウェア：コンピュータシステムの物理的な構成機器・部品のこと。プリンタやモデムなどの周辺機器も含む。

Hibernation Mode

メモリ内の全てのデータをハードディスクに保存し、CPU とハードディスクをオフにする電源モード。ハイバネーションモードを解除すると、全てのアプリケーションプログラムは、最後の状態が再表示される。

IDE (Integrated Drive Electronics)

ハードディスク等のIDEデバイスは、その装置自身に制御回路が搭載され、SCSIのような個別のアダプタカードを必要としない。UltraDMA/33の33は、33MB/秒のデータ転送速度を持つことを示している。

POST (Power On Self Test)

ポスト：電源投入時の自己診断。コンピュータの電源を入れたとき、一番最初に実行される。POSTは、メモリ・マザーボード回路・ディスプレイ・キーボード・ディスクドライブおよび他の入出力装置をチェックする。

RAM (Random Access Memory)

ランダム・アクセス・メモリ：DDR-SDRAM(Double Data Rate Synchronous DRAM）やDDR2-SDRAM等のソリューションがある。

Standby Mode

コンピュータ不使用時に、電力消費を最小にする電源モード。スタンバイモードでは、コンピュータメモリのデータはハードディスクに保存されず、電源をオフにすると、メモリ内のデータは失われる。

Suspend Mode

Iサスペンドモード：コンピュータの休止状態のことで、本製品では、Save-to-RAM(STR)状態のことをいう。CPUのクロックが停止し、電力消費は最低限に押さえられる。UltraMobilePC一定時間アクセスされないと自動的にサスペンドモードに移行するようにBIOSセットアップで設定できる。また、Fnキーを用いて手動でサスペンドさせることも可能である。サスペンドモード中は、UltraMobilePCの電源LEDが点滅する。

System Disk

システムディスク：OSの基本ファイルを含み、コンピュータとOSを起動するのに用いられる。

Twisted-Pair Cable

ツイストペアケーブル：より対線のこと。イーサネット用ケーブルに用いられており、TPE (Twisted Pair Ethernet)と呼ばれる。両端には、RJ-45コネクタが取り付けられており、ハブやネットワークカードに接続できるようになっている。(RJ-11＝電話機用コネクタとの違いに注意。互換性はない)

UltraDMA/66、UltraDMA/100

UltraDMA/66 、または 100 はIDE 転送率を向上させた仕様。IDEのデータシグナルの立ち上がりシングルエッジのみでデータを転送した従来のPIOモードとは異なり、UltraDMAでは、立ち上がりと立ち下がりの両方のエッジを用いてデータの転送速度を向上させている。Ultra ATAとも書く。

USB (Universal Serial Bus)

シリアルバスで、キーボード・マウス・ジョイスティック・スキャナ・プリンタ・モデム・ディスプレイなどのデータを 1種類の信号で共有できる、トークン方式のインターフェースである。他の機器が稼働中でもケーブルの抜き差しが出来る。1 つのケーブルで同期・非同期方式に対応しており、最大転送速度は12Mビット/秒である。USB2.0では、スピードが倍にあがり、これは、1394規格に匹敵する。

Windows

Microsoft Corporation により開発されたオペレーションシステムの名称。本コンピュータに使用。

Certifications（規格/プロトコルなど原文掲載）

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a class B digital device, pursuant to Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING! The use of a shielded-type power cord is required in order to meet FCC emission limits and to prevent interference to the nearby radio and television reception. It is essential that only the supplied power cord be used. Use only shielded cables to connect I/O devices to this equipment. You are cautioned that changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void your authority to operate the equipment.

(Reprinted from the Code of Federal Regulations #47, part 15.193, 1993. Washington DC: Office of the Federal Register, National Archives and Records Administration, U.S. Government Printing Office.)

FCC Radio Frequency Interference Requirements

This device is restricted to INDOOR USE due to its operation in the 5.15 to 5.25GHz frequency range. FCC requires this product to be used indoors for the frequency range 5.15 to 5.25GHz to reduce the potential for harmful interference to co-channel of the Mobile Satellite Systems.

High power radars are allocated as primary user of the 5.25 to 5.35GHz and 5.65 to 5.85GHz bands. These radar stations can cause interference with and / or damage this device.

IMPORTANT: This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

FCC Radio Frequency (RF) Exposure Caution Statement

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. To maintain compliance with FCC RF exposure compliance requirements, please avoid direct contact to the transmitting antenna during transmitting. End users must follow the specific operating instructions for satisfying RF exposure compliance.

For operation within 5.15GHz and 5.25GHz frequency ranges, it is restricted to indoor environment, and the antenna of this device must be integral.

FCC Caution: Any changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment. "The manufacture declares that this device is limited to Channels 1 through 11 in the 2.4GHz frequency by specified firmware controlled in the USA."

FCC RF Exposure Guidelines (Wireless Clients)

This device has been tested for compliance with FCC RF Exposure (SAR) limits in typical portable configurations. In order to comply with SAR limits established in the ANSI C95.1 standards, it is recommended when using a wireless LAN adapter that the integrated antenna is positioned more than [20cm] from your body or nearby persons during extended periods of operation. If the antenna is positioned less than [20cm] from the user, it is recommended that the user limit the exposure time.

Declaration of Conformity (R&TTE directive 1999/5/EC)

The following items were completed and are considered relevant and sufficient:

- Essential requirements as in [Article 3]
- Protection requirements for health and safety as in [Article 3.1a]
- Testing for electric safety according to [EN 60950]
- Protection requirements for electromagnetic compatibility in [Article 3.1b]
- Testing for electromagnetic compatibility in [EN 301 489-1] & [EN 301]
- Testing according to [489-17]
- Effective use of the radio spectrum as in [Article 3.2]
- Radio test suites according to [EN 300 328-2]

CE Mark Warning

This is a Class B product, in a domestic environment, this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

IC Radiation Exposure Statement for Canada

This equipment complies with IC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. To maintain compliance with IC RF exposure compliance requirements, please avoid direct contact to the transmitting antenna during transmitting. End users must follow the specific operating instructions for satisfying RF exposure compliance.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause interference and
- This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

To prevent radio interference to the licensed service (i.e. co-channel Mobile Satellite systems) this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Because high power radars are allocated as primary users (meaning they have priority) in 5250-5350 MHz, these radars could cause interference and/or damage to license exempt LAN devices.

Wireless Operation Channel for Different Domains

日本	2.412-2.484 GHz	Ch01 through Ch14
N. America	2.412-2.462 GHz	Ch01 through CH11
Europe ETSI	2.412-2.472 GHz	Ch01 through Ch13

France Restricted Wireless Frequency Bands

Some areas of France have a restricted frequency band. The worst case maximum authorized power indoors are:

- 10mW for the entire 2.4 GHz band (2400 MHz–2483.5 MHz)
- 100mW for frequencies between 2446.5 MHz and 2483.5 MHz

NOTE: Channels 10 through 13 inclusive operate in the band 2446.6 MHz to 2483.5 MHz.

There are few possibilities for outdoor use: On private property or on the private property of public persons, use is subject to a preliminary authorization procedure by the Ministry of Defense, with maximum authorized power of 100mW in the 2446.5–2483.5 MHz band. Use outdoors on public property is not permitted.

In the departments listed below, for the entire 2.4 GHz band:

- Maximum authorized power indoors is 100mW
- Maximum authorized power outdoors is 10mW

Departments in which the use of the 2400–2483.5 MHz band is permitted with an EIRP of less than 100mW indoors and less than 10mW outdoors:

01 Ain Orientales	02 Aisne	03 Allier	05 Hautes Alpes
08 Ardennes	09 Ariège	11 Aude	12 Aveyron
16 Charente	24 Dordogne	25 Doubs	26 Drôme
32 Gers	36 Indre	37 Indre et Loire	41 Loir et Cher
45 Loiret	50 Manche	55 Meuse	58 Nièvre
59 Nord	60 Oise	61 Orne	63 Puy du Dôme
64 Pyrénées Atlantique	66 Pyrénées	67 Bas Rhin	68 Haut Rhin
70 Haute Saône	71 Saône et Loire	75 Paris	82 Tarn et Garonne
84 Vaucluse	88 Vosges	89 Yonne	90 Territoire de Belfort
94 Val de Marne			

This requirement is likely to change over time, allowing you to use your wireless LAN card in more areas within France. Please check with ART for the latest information (www.art-telecom.fr)

NOTE: Your WLAN Card transmits less than 100mW, but more than 10mW.

UL Safety Notices

Required for UL 1459 covering telecommunications (telephone) equipment intended to be electrically connected to a telecommunication network that has an operating voltage to ground that does not exceed 200V peak, 300V peak-to-peak, and 105V rms, and installed or used in accordance with the National Electrical Code (NFPA 70).

When using the UltraMobilePC modem, basic safety precautions should always be followed to reduce the risk of fire, electric shock, and injury to persons, including the following:

- Do not use the UltraMobilePC near water, for example, near a bath tub, wash bowl, kitchen sink or laundry tub, in a wet basement or near a swimming pool.
- Do not use the UltraMobilePC during an electrical storm. There may be a remote risk of electric shock from lightning.
- Do not use the UltraMobilePC in the vicinity of a gas leak.

Required for UL 1642 covering primary (non-rechargeable) and secondary (rechargeable) lithium batteries for use as power sources in products. These batteries contain metallic lithium, or a lithium alloy, or a lithium ion, and may consist of a single electrochemical cell or two or more cells connected in series, parallel, or both, that convert chemical energy into electrical energy by an irreversible or reversible chemical reaction.

- Do not dispose the UltraMobilePC battery pack in a fire, as they may explode. Check with local codes for possible special disposal instructions to reduce the risk of injury to persons due to fire or explosion.
- Do not use power adapters or batteries from other devices to reduce the risk of injury to persons due to fire or explosion. Use only UL certified power adapters or batteries supplied by the manufacturer or authorized retailers.

Power Safety Requirement

Products with electrical current ratings up to 6A and weighing more than 3Kg must use approved power cords greater than or equal to: H05VV-F, 3G, 0.75mm^2 or H05VV-F, 2G, 0.75mm^2.

Nordic Lithium Cautions（リチウムバッテリについて）

CAUTION! Danger of explosion if battery is incorrectly replaced. Replace only with the same or equivalent type recommended by the manufacturer. Dispose of used batteries according to the manufacturer's instructions. (English)

ATTENZIONE! Rischio di esplosione della batteria se sostituita in modo errato. Sostituire la batteria con un una di tipo uguale o equivalente consigliata dalla fabbrica. Non disperdere le batterie nell'ambiente. (Italian)

VORSICHT! Explosionsgetahr bei unsachgemäßen Austausch der Batterie. Ersatz nur durch denselben oder einem vom Hersteller empfohlenem ähnlichen Typ. Entsorgung gebrauchter Batterien nach Angaben des Herstellers. (German)

ADVARSELI! Lithiumbatteri - Eksplosionsfare ved fejlagtig håndtering. Udskiftning må kun ske med batteri af samme fabrikat og type. Levér det brugte batteri tilbage til leverandøren. (Danish)

VARNING! Explosionsfara vid felaktigt batteribyte. Använd samma batterityp eller en ekvivalent typ som rekommenderas av apparattillverkaren. Kassera använt batteri enligt fabrikantens instruktion. (Swedish)

VAROITUS! Paristo voi räjähtää, jos se on virheellisesti asennettu. Vaihda paristo ainoastaan laitevalmistajan sousittelemaan tyyppiin. Hävitä käytetty paristo valmistagan ohjeiden mukaisesti. (Finnish)

ATTENTION! Il y a danger d'explosion s'il y a remplacement incorrect de la batterie. Remplacer uniquement avec une batterie du mêre type ou d'un type équivalent recommandé par le constructeur. Mettre au rebut les batteries usagées conformément aux instructions du fabricant. (French)

ADVARSEL! Eksplosjonsfare ved feilaktig skifte av batteri. Benytt samme batteritype eller en tilsvarende type anbefalt av apparatfabrikanten. Brukte batterier kasseres i henhold til fabrikantens instruksjoner. (Norwegian)

注意：バッテリの交換は正しく行ってください。破裂する危険があります。交換の際は、メーカーが指定したバッテリをお使いください。廃棄の際は、メーカーの指示に従って行ってください。(Japanese)

Copyright について

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証も行いません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、内容は予告なしに 変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

Copyright © 2007 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

責任制限

この責任制限はASUSの、或は他の責任の不履行により、ユーザーがASUSから損害賠償を受ける権利が生じた場合に発生します。

このようなケースが発生した場合は、ユーザーのASUSに損害賠償を請求する権利の有無にかかわらず、ASUSは肉体的損害（死亡したケースを含む）と不動産及び有形動産への損害のみに賠償責任を負います。或は、それぞれの製品の記載された協定価格を限度とし、「Warranty Statement」のもとに生じる法的義務の不作為または不履行に起因するいかなる実害と直接的な被害のみに対して賠償責任を負います。

ASUSは「Warranty Statement」に基づき、不法行為または侵害行為が発生した場合と、契約に基づく損失や損害が生じた場合及びその主張に対してのみ賠償し、責任を負います。

この責任制限は、ASUSの供給者または販売代理店にも適用されます。賠償の際は、ASUSとその供給者及び購入した販売代理店を一集合体としてその限度額を定めており、その限度額に応じた賠償が行われます。

以下のケースに対しては、ASUSとその供給者及び販売代理店がその可能性を指摘されている場合においても、ASUSはいかなる賠償及び保証を行いません。

(1) ユーザーが第三者から請求されている申し立て (2) ユーザーの個人情報やデータの損失 (3) 特殊、偶発的、或は間接的な損害、または 貯蓄や諸利益を含むあらゆる結果的な経済的損害

サービスとサポート

マルチ言語サポートサイトを開設しました。下のリンクで「Language」から「Japanese」を選択してください。

http://support.asus.com